



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ES ビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

平成28年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第1回運営委員会

1. 開催日時：平成28年4月11日（月）18：30-21：00
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
清野成美 港区 国際化・文化芸術担当課長
高木隆子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長（陪席）
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
内藤真知子 同 専務理事
戸田佐和 同 常務理事（陪席）
新野佳子 同 研修事業部 担当部長
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長

4. 討議事項

1) 主催者挨拶

昨年度プログラムへの報告並びにご協力へのお礼と、4年連続4回目となる今年度の事業、実践プログラムAについてのご協力をお願いした。

今年度新しく運営委員会に参加くださった小門氏、清野氏をご紹介した。

今年度は長年 AJALT が取り組んできた難民への日本語教育の知見をもとに、難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援を行う予定である。昨年度、実践プログラムBを実施して得られた連携の力も加え、AJALT がお役に立てられる日本語教室、支援者研修ができると思う。今年度も一同頑張る所存である。

2) 本年度事業について

実施計画の説明

- ・取組1「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業」（全40回 計80時間）
平成28年5月12日～平成29年3月9日（除：8/11、9/22、11/3、12/29）
毎週木曜日 18：30～20：30
於：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺

○今年度は日本語教室を2クラス編成にすることについて

継続参加希望の学習者が増えている。継続参加希望者と新規に参加する学習者とはレベルもニーズも異なっているため、今年度は2クラス体制にし、それぞれの学習者に合わせた内容で支援を行う。

継続参加希望の学習者には昨年度、一昨年度に学習した内容に積み上げた形での学習内容を検討する。

- ・取組2「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修」 (全10回 計30時間)

平成28年12月8、15日、平成29年1月12日～3月2日

毎週木曜日 17:30～20:30

於：公益社団法人 国際日本語普及協会

3) 参加者募集について

長年、難民とその家族への支援に限定されてきた。それ以外のまだ難民と認められていない人が大勢いるにもかかわらず、こうした人への支援ができず、歯がゆい思いをしてきた。今年度は難民とその家族だけではなく、人道的配慮により在留を認められた者に対する支援を行えるため、広く声がけしていきたい。

4) 質疑応答、意見交換

1. 難民関係者以外の希望者受け入れについて

難民とその家族の方を主な対象とするものの、厳密なものではない。生活日本語を学習したい方は原則として大歓迎である。

ただ、経済的理由により日本語学校の授業料を払えないため、日本語学校に通うことのできない方を主な対象としており、現在の学習者もそのような方である。ミャンマー難民やその友人達が多いこの日本語教室の雰囲気などもある。経済力のある欧米のビジネスマンの方などは、港区国際交流協会等、他の日本語教室をご紹介するなどしたい。

2. 教材のブラッシュアップについて

教材は、そのときの学習者のニーズや希望に併せて、毎回新しいものを作成している。

今年度も学習者に合わせて教材を作成するが、これまでの教材も多数蓄積されており、その中から、良いものや今年度の学習者にも合うものなど、積極的に使っていく予定である。

3. 学習者の費用負担について

- ・学習者は無料である。
- ・戸外学習を行う場合、費用は自己負担になる。
- ・戸外学習の利点について

教師も含めて体験を共有することで学びが生まれる。学習者同士が親密になり、クラスの一体感、連帯感が生まれる利点もある。

○戸外学習の候補地についてアイデアをお願いした。

(夜の日本語教室に適する、日本の四季感じられ日本文化を学べるものなど)

候補：重要文化財築地本願寺お盆の時に一般公開している。(8月)

有栖川公園(港区) 国際文化会館の庭(六本木)

4. 昨年度の日本語教室の進め方について

-15 人も多くの学習者をどうやって二人の講師で支援したのか。

- ・学習者は互いに学びあう力がある。その力を引出し、またその力に助けられている。
 - ・必要に応じて、レベル別に分けたり、合同で行ったりと臨機応変に対応している。
 - ・こうした支援の実践は支援者研修でご紹介するので、支援者研修に是非参加してほしい。
- 本事業の日本語教室は、生活日本語を学ぶ一つのモデル教室としての意義があると考えている。見学自由のオープンな環境で行っている。

5. 学習者のアンケートについて

-アンケートを取っているのか。

-取っている場合は、どのような意見が寄せられているのか。

- ・アンケートで文字学習(漢字)へのニーズが高いことより、コミュニケーション中心ではあるが、文字学習も取りいれている。
- ・文字が分かるようになると、周りのものに意味が与えられ、世界が変わってくる。
- ・ヤンゴン大学卒や大学院卒など学歴が高い学習者が多いため、文字ができないことに自己不全感がある。そうした自己不全感を失くし、自信を持ってもらうためにも文字学習は重量である。
- ・昨年の学習者のアンケート結果を回覧した。

6. 募集要項の多言語翻訳について

-ミャンマー語、英語だけでなく、ベトナム語、ラオス語などの翻訳はどうか。

←ベトナム人、ラオス人のコミュニティの中に日本語ができる人がいるので、その人から伝えてもらうことで対応したい。

7. 支援者研修の内容について

全 10 回 30 時間 12 月からスタート

前半：日本語支援にどうしても必要な知識(日本語を外国語としてとらえる、音声、文法など)を学ぶ

後半：支援の実践を体験してもらうプログラムを組む

5) 次回運営委員会について

次回の運営委員会は 8 月下旬～9 月上旬頃を予定。

日本語教室実施の経過報告を行う。12 月から実施予定の支援者研修の内容についてご説明し、広報へのご協力をお願いしたい。

以上



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ES ビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

平成28年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第2回運営委員会

1. 開催日時：平成28年9月9日（金）18：00-21：00
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派梅上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
清野成美 港区 国際化・文化芸術担当課長
高木隆子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長（陪席）
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
戸田佐和 同 専務理事（陪席）
小瀧雅子 同 常務理事
新野佳子 同 研修事業部 担当部長
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長

4. 討議事項

1) 主催者挨拶

本日の検討事項について説明後、理事長関口より、ご挨拶、今年度の本事業の趣旨説明、並びにこれまでのご協力のお礼を申し上げた。

2) 本年度事業について

- ・取組1「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援事業」（全40回 計80時間）

平成28年5月12日～平成29年3月9日（除：8/11、9/22、11/3、12/29）

毎週木曜日 18：30～20：30

於：浄土真宗本願寺派梅上山光明寺

○これまでの状況について報告

- ・今年度は2クラス体制で学習している。メイン講師と補助講師の2名の講師が其々のレベルに合わせて丁寧な指導を行っている。

昨年度の学習者10名と新規学習者10名を想定して20名程度の学習者が参加すると想定して2クラスとした。しかし、申し込み数は15名程度いるものの、現在のところ常に出席しているのは7、8名程度である。今月からは新規2名の学習者を加え約10名程度の学習者が出席する予定である。

- ・人数は少ない分、アットホームな雰囲気、学習者にとって友達と語り合える居場所になっている。
- ・夏には「健康と病気」、9月は台風シーズンに合わせ「災害に備える」など、生活に必要な生活日本語の学習を行っている。10月からは物を見せながら、その物を説明したり、その物にまつわる「自分の話」を話したり、他のクラスメートから質問を受けたりする「show & tell」を行う予定である。他のクラスメートの話を聞いたりするのも、お互いにより良く知り合ういい機会となる。日本語の上のクラスは継続的に時事的なニュースなども扱っている。
- ・7月7日4の七夕には、戸外学習として、増上寺の七夕キャンドルライトと東京タワーを見学した。戸外学習の前には交通経路の日本語表現を学習し、実際に増上寺まで歩きながらその復習を行った。
- ・10月にも日本の社会事情を知ってもらうために、日本文化を体験したり、日本の伝統行事等に参加する戸外学習を計画している。何か良い候補先があれば教えていただければお願いした。

- ・取組2「難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者に対する日本語教育への理解を促進するための支援者研修」 (全10回 計30時間)
平成28年12月8、15日、平成29年1月12日～3月2日
毎週木曜日 17:30～20:30
於：公益社団法人 国際日本語普及協会
12月から実施する予定の支援者研修について概略を説明した。

3) 参加者募集について

- ・支援者研修の実施は今年度で3回目となる。
- ・支援者研修を受けて、その後、港区の国際交流協会に参加した方もいる。
- ・今年度は難民の方への支援を中心としたプログラムなので、港区だけではなく、広く参加者を募集していきたい。
- ・この支援者研修が難民の方を全然知らない人が難民のことを知ってもらう機会になればいいと考えている。
- ・出席者の皆様に参加者募集へのご協力をお願いした。

4) 質疑応答、意見交換

支援者募集と募集チラシについて

- ・支援という言葉は広いので、支援の内容が分かるように、もう少し具体的に書いたらどうだろうか。
- ・どのような方でも参加できることを明記したらどうか。難民の方を知りたい方、国際交流に興味のある方、日本語教師としての幅を広げたい方、また、全く日本語支援にかかわっ



公益社団法人国際日本語普及協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-25-2 虎ノ門 ESビル2階
TEL (03)3459-9620 FAX (03)3459-9660

ASSOCIATION FOR JAPANESE-LANGUAGE TEACHING
2F Toranomon ES Bldg.
3-25-2 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001, JAPAN
<http://www.ajalt.org>

たことがない方でも、参加できる、大丈夫であることを伝えるなど。

その他

- ・英語ができないと教えられないということはないか。(媒介語を使わないで日本語を教えることができるのか。)

←直説法(日本語で日本語を教える)で教えることが可能。英語を話さない学習者もいる、媒介語を効果的に使うことは重要だが、どんな学習者でも教えられるということが、日本語教師としては必要である。日本語教師はどんな学習者に対してもゼロからずっと教えられるという自信がある。

ミャンマー人が多いため、この教室でも直接法で教えている。

5) 次回運営委員会について

2017年3月に今年度のご報告を兼ねた第3回運営委員会を行う予定である。

以上

平成28年度文化庁地域日本語教育実践プログラム（A）

難民およびその家族、人道的配慮により在留を認められた者を主たる対象にする日本語支援
および難民への日本語教育への理解促進事業

第3回運営委員会

1. 開催日時：平成29年3月16日（木）18：30-21：00
2. 開催場所：公益社団法人 国際日本語普及協会（AJALT）
3. 出席者：伊藤寛了 公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部 企画調整課 企画第一係長
（敬称略）石上和敬 浄土真宗本願寺派海上山光明寺 住職、武蔵野大学 教養教育部 教授
岩瀬香奈子 株式会社アルーシャ 代表取締役
小門 謙 一般財団法人 港区国際交流協会 事務局長・常務理事
関口明子 公益社団法人 国際日本語普及協会 理事長
戸田佐和 同 専務理事（陪席）
小瀧雅子 同 常務理事
新野佳子 同 教師会員
樋口 博 同 日本語授業部 担当部長
小形真佐子 同 研修事業部 担当部長（陪席）
ご欠席：清野成美 港区 国際化・文化芸術担当課長
高木隆子 港区 産業・地域振興支援部 地域振興課 国際化推進係係長

4. 討議事項

・ご挨拶

始めに、理事長関口より、本年度事業が無事終了したことをご報告し、ご協力へのお礼を述べた。また高木様、石上ご住職奥様が学習発表会に参加くださったことへの感謝の気持ちを伝えた。昨年まではミャンマー出身の学習者がほとんどだったが、今期は中国、ベトナムなどの学習者が参加し、国籍が増えたこともよかった。来期も引き続き本事業を行いたいと考えており、ご引き続きのご協力をお願いした。

1) 「日本語学習支援事業」（取組1）実施報告

- ・開催日時：5月12日～3月9日（木曜日 18：30-20：30） 全40回
- ・参加者：21名（ミャンマー12名、ベトナム6名、中国2名、シンガポール1名）
- ・実施内容報告：

別紙（40回分実施内容スケジュール表）を参照しながら、学習内容の概略を説明した。

日本語の支援授業は日本語力の向上を目的に、主として、日本の生活に必要な、生活が便利になるための学習、日本の文化・生活、習慣を学ぶ学習を行った。

季節毎に、七夕、お盆、お正月、節分などを学習した。加えて、行動体験学習として、授業

で「七夕」について学習した後に、7月7日には増上寺の七夕短冊祈願会、和紙キャンドルライト祭に参加した。また、「酉の市」について学習した後に、11月10日には新宿花園神社の酉の市を実際に見学した。

日本でその時々、話題になっているものを取り上げ、日本の今を知り、日本人との会話に入っていけるよう、「NHK NEWS WEB EASY」のニュース記事などを活用した読解学習を行った。初中級のクラスの漢字学習は読解教材の中から、必要なものを取り出し学習した。

○学習者について

学習者数は21人で、昨年は17人、一昨年は16人だったので、若干だが増加している。中盤から口コミでベトナム人の学習者が増えた。5名は昨年からの引き継ぎの参加である。

○クラス編成

1 昨年、昨年から引き続き参加している学習者は、確実に日本語力があがっている。今年度、新しく、全くの0レベルから参加した学習者もあり、同じクラスでの学習は無理があった。そのため、レベル別に2クラス編成とし、クラスごとにメインの講師と、補助講師の2名体制で、学習者に合わせてきめ細かく対応した。

○質問・補足説明等（質問等に答える形で補足説明を行った）

- ・学習者の滞日年数はどのくらいか。滞日年数によって日本語のレベルが違ってくるのか。
どのくらい日本語を学習したかによるので、滞日年数と日本語力は必ずしも一致しない。滞日年数が長ければ耳は慣れてくるので、日本語を聞く力は伸びていくということはある。
- ・教材について
配布された教材について、理解が難しいものがあるのではないかと。
難しいと思われる教材は、上のクラス、初中級学習者用の教材である。初級入門用の教材は別である。また実際に使用する際には、講師が説明し、学習者の理解度に合わせ、段階を踏んで学習していく。
- ・プロソディについて
ことばを五感によって味わい、体に本物の日本語を染み込ませていくものである。リズムカルに毎回行うことで発音練習ともなり、促音、拗音などに慣れ、徐々に口回りがよくなって、日本語らしい発音ができるようになっていく。加えて言葉の学習にもなる。
レベルが違ってても合同で行える利点があり、この日本語学習事業の特徴となっている。
- ・休みについて
休みはあるか、休みがなくて大丈夫か。
2時間の活動中休み時間はない。歌やプロソディ学習も行っているため、休憩がなくても、飽きたり疲れたりすることはない。
- ・主に入門・初級クラスでは、多読ライブラリーなどを活用し、日本の昔話の学習なども行っ

た。(桃太郎、浦島太郎など)

- ・文法的な学習も取り入れている。今期は特に動詞の活用プロソディなども行った。
- ・クラスの中でもレベル差があるとおもうが、その対応はどのようにしたのか。

学習内容が文法積み上げではなく、共通話題(トピック)で進むので、レベル差があっても進めることができる。100%理解している学習者もいれば、半分くらいの理解で進む学習者もいるが、その学習者ごとに夫々のレベルで、日本語力を伸ばしている。

- ・入門・初級と初中級で同じテーマのものがあるが、どのように学習しているのか。

テーマ・トピックは共通だが、教材、学習内容は異なる。レベルに合わせて、講師が授業内容を組み立て、レベルに合わせた教材を用いて学習をしている。

- ・終了時になにか、修了証などを出したのかどうか。1週間に2時間ではなかなか日本語力が伸びないのではないか。

修了証はだしていないが、精勤賞をだした。(今期2名)

熱心に通った学習者は日本語力が伸びている。学習者のやる気ができるような学習内容にすることが、難しいが重要である。

- ・イベントなどのときは、学習者も多く参加しているようだが、どうか。

戸外学習はせっかくの機会なので、積極的に参加を呼びかけ、また皆も楽しみにしており参加者も多い。体験行動学習として日本語力を伸ばすためにも、またクラス内の親睦・交流のためにも日本語学習に役立ち、かつ楽しい企画を今後も実施していく。

○アンケート結果報告

参加学習者から大変よいアンケート結果が出た。

① 日本語が上手になったか。 はい。5人/5

② このプログラムを受ける前より、日本でよりよく生活できるようになったか。

はい 4人/5人中

③ このプログラムに満足しているか。はい 5人/5人中

○今期の反省点

・合同の時間(プロソディや歌など)が長すぎた回があった。そのことでメインの時間が少なくなったことがあり、来期は気をつけたい。

・回により、2クラスの学習者の数のアンバランスがあった。

・入門・初級は基礎的な文法などにも力を入れていきたい。全くの0初級の学習者が気おくれないように気をつけたい。

・入院した学習者、帰国した学習者、仕事終了後、夜の授業までの待ち時間が長い時間、参加を断念した人など、参加できなくなった理由はいろいろあるが、広報活動に力を入れ、より多くの学習者が参加できるようにしたい。

2)「支援者研修」(取組2)実施報告

- ・開催日時：12月8日～3月2日（木曜日 17：30-20：30） 全10回
- ・参加者：12名
- ・実施内容報告：

別紙（10回分支援者研修スケジュール表）を参照しながら、学習内容の概略を説明した。

基礎研修7回について

初回のテーマは「日本語支援の第1歩—学習者を知ろう 日本に暮らす難民」ということで、難民についての基礎知識を学ぶと同時に、難民の方を講師に迎え、実際にその体験談を聞き、質問にお答えした。

残り基礎研修6回では、日本語支援をするにあたって最低必要な知識と思われる「わかりやすい日本語の話し方、日本語の音声、文字表記、基本的な文法知識、行動体験型の教室活動：「標準的カリキュラム案」について」を学習した。

実践研修3回について

行動体験型の教室活動：「標準的カリキュラム案」の実践として「SHOW&TELL」の手法、また、学習発表会に向けて学習者が行う「スピーチ」のテーマ決め、内容の引き出し、原稿作成、発表練習までの一連の学習過程に寄り添い、実際に支援体験活動を行った。

アンケートの結果にも出ているが、基礎研修、実践研修のバランスが良かった。

○参加者（12名）について

参加者は、全く支援の経験のない方、既に日本語支援を初めている方、あるいはこれから始める方、日本語教師を目指し、学習中の方、日本語支援はしていないが、定住外国人と日々接している方など様々だった。

日本語支援経験者と経験のない参加者の割合は大体半々だった。

○質問・補足説明・今期反省点等

- ・支援者研修の3時間は長くはなかったか。
座学だけではなく、ワークショップを組んだり、実践的な内容で行ったので、短く感じられた回も多かった。
- ・支援者研修参加者が学習支援を行うと、学習者から支援は先生（AJALT 教師）がいいと言われてしまうことがあったが、今回は支援内容を発表会に向けてのスピーチ支援に限定したこと、スピーチに向けての話し合い、原稿作成、練習までを一貫して支援したことにより、支援者も流れが分かり、支援しやすくなった。また学習者からの不満は一切なかった。支援者と学習者を1対1（場合によって2対1）で、その組み合わせは最初からずっと同じであったことから、信頼関係が生まれた。発表会では支援者が自分のことのようにハラハラドキドキしながら応援している姿が印象的だった。

○アンケート結果報告：主なアンケート内容紹介

- ・今回参加して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思うか。

回答：深まったと思う 7人/7人中

- ・今回参加して、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたが。

回答：関わってみたいと思う 6人/7人中

できれば関わってみたいと思う 1人/7人中

アンケートに寄せられたコメントより

- ・全く知識のない状態での出席でしたが、講師の先生方の授業は分かりやすく、教材等の紹介も豊富で、今後の活動に大変役に立つと感じました。どうもありがとうございました。
教室での実習も座学とは違った経験ができ、とても良かったです。
- ・今回参加させていただき、日本語を外国の方にゼロから教えることの難しさを知り、そして日本語を改めて見つめなおし、おそらくまだ実践するにはほど遠いとは思いますが、道筋のようなものが見えた気がします。とても楽しく学ばせて頂きました。またこのような機会がありましたら、お声かけください。
- ・貴団体の研修を受けて、ボランティアの皆さんが文法を「わかっている」「知っている」ということは、とても役に立つと思いました。「学習者を知る」→「文法を知る」→「教室活動を体験する」という一連の流れになっていて、学んだことを次回に生かしました。ありがとうございました。
- ・非常にためになった。それと共に楽しかった。また機会があったら日本語の勉強を続けたいと思います。

3) 本年度事業の評価

「日本語学習支援事業」(取組1)、「支援者研修」(取組2)ともに、アンケート結果も踏まえて良い評価を頂いた。

4) 来年度事業について

平成29年度文化庁地域日本語教育実践プログラム(A)に申請する予定である。

50時間の日本語教室、30時間の支援者研修を実施することになる。

次年度もレベル別に2クラスのクラス編成とするが、補助講師は全体として1名とする。

教材はレベル別に新規に作成する予定である。

来年度も引き続きのご支援・ご協力をお願いした。

以上

第1回	実施日：2016年5月12日（木） 18:30 ～ 20:30
講師	初級：松井治子（メイン）・宮下しのぶ（補助）入門：大上幸二（メイン）・小形真佐子（補助）
参加者	関口明子理事長 樋口博 新野佳子 小瀧雅子
学習者	出席9名： ボクサン、リンリン、マウン・マウン・エー、ビビエン、マリシャボ、テーテー・ルイン、カーギー・リー、ロイ・ヌー、リン・アウン
第1回の目標	
1. 学習者のニーズとレベルを把握し、今後の授業の方針を確定する 2. 参加者同士が楽しく学習していける教室の雰囲気を作る	
学習項目	
1. 関口理事長挨拶 2. 講師・学習者全員が各自名前を言って、簡単に挨拶した。 3. 全員でプロソディ「ことば・ことば・ことば」をアイスブレーキングをかねて練習した。 4. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ（ボクサン、リンリン、マウン・マウン・エー、ビビエン、マリシャボ） ・H27年度からの継続学習者であったので、今期から参加の講師を交えて自己紹介を行った。 ・学習者同士で近況報告。ゴールデンウィークをどう過ごしたかを話し、質問をし合った。 入門グループ（ロイ、カーギー、テーテー、アウン） ・4名とも本日が初めての出席なので改めて自己紹介を行った。 ・名前、来日時期、住所、家族、仕事について一人ずつ発表。よろしくお願いします・・・で終わるといった正しい言い方を講師より指導し、板書したものを繰り返し練習、他の学習者を紹介することも行った。 5. 文字クラス 3グループに分かれて学習 前年度より漢字学習を継続するグループ（①）、漢字入門のグループ（②）、かな学習のグループ（③）の3クラスに分かれて学習 ① 前期修了時に扱った漢字の総復習として渡した教材を読んで復習し、教材の中から、例文を発展させて自分たちの文作りを行った。 ② 多少読める漢字はあったが、書くのははじめてということだったので、基本的な書き順のルールを紹介してから曜日の漢字を学習した。 ③ 50音表を示し、ひらがな体系を説明した。あいうえおの歌を合唱、一字ずつから始めて赤、青、白、黒といったひらがなを意味とともに説明し、練習した。 6. 終わりの挨拶	
全体的コメント	
初回で申し込みのなかった新規参加者も2名あり、継続者5名、全員で9名のスタートとなった。担当講師も本日担当の4名以外、3名がアイスブレーキングのプロソディ学習に参加し、なごやかにスタートした。今回のグループ分けは暫定的であり、今後変更の可能性もある。継続組は3年目が2名、2年目が3名である。新規参加者も教室の雰囲気に溶け込み、熱心に学習した。	

第2回	実施日：2016年5月19日（木） 18:30 ～ 20:30
講師	初級：宮下しのぶ（メイン）・新野佳子（補助）入門：小形真佐子（メイン）・大上幸二（補助）
学習者	出席10名： ボクサン、リンリン、タンタンメイ、ビビエン、マリシャボ、テーテー・ルイン、カーギー・リー、ロイ・ヌー、リン・アウン、センマイ
第2回の目標	
1. クラスメートの前で、まとまった自己紹介をする。 2. 参加者同士が楽しく学習していける教室の雰囲気を作る	
学習項目	
1. 始まりの挨拶 2. 先週導入した「ことば ことば ことば」を全員で練習した。 3. 会話クラス 2グループに分かれて学習。 初級グループ（ボクサン、リンリン、タンタンメイ、ビビエン、センマイ） ・先週の学習事項を引き継ぎながら、項目別に各自の情報を整理した。 ・上記の項目から特に「性格」を取り上げて学習した。 ・自己紹介の形式で話す練習をした。 入門グループ（ロイ、カーギー、テーテー、アウン、マリシャボ） ・先週学習した自己紹介を復習し、家族の話を発展させた。 ・好きなもの、特に食べ物、季節について、自分のことを話した。 ・自己紹介文を読んで学習した。 4. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の3クラスに分かれて学習 ① 漢字リスト（N4 レベル）の漢字を含む読み物を、漢語の読み、意味を確認しながら読んだ。 ② 「月火水木金土日」を復習し、「一週間の歌」を読んで、文作りをした。 ③ あ行か行を一文字ずつノートに書いて練習した。語彙を読んだ。 5. 合同クラス 自己紹介 1人ずつ立って、会話クラスで学習した自己紹介を行った。 6. 終りの挨拶	
全体的コメント	
初回に来なかった新規参加者一名と、継続者一名が加わった。新規参加者は子連れでの参加であり、子どもへの対応は、学習者本人及び AT1 名が行ったが、今後の対応の仕方について、全員で方針を共有する必要がある。新たに子連れ参加を希望する学習者が出てくる可能性もある。本日のところは、子ども達の元気な声も加わり、賑やかかつ和やかに学習が進められた。	

第3回 実施日：2016年5月26日(木) 18:30～20:30	
講師	初級：新野佳子(メイン)・樋口博(補助) 入門：小瀧雅子(メイン)・井上紀代(補助)
学習者	出席 8名： ボクサン、リンリン、タンタンメイ、ビビエン、テーテー・ルイン、カーギー・リー、リー・テツリン・アウン、
第3回の目標	
1. 自分の一日の生活について話す。 2. 参加者同士が楽しく学習していける教室の雰囲気を作る	
学習項目	
合同で 1. 挨拶 日付 2. 「ことば ことば ことば」を全員で練習。 3. 会話クラス 2グループに分かれて学習。 初級グループ(ボクサン、リンリン、タンタンメイ、ビビエン、) ・1日の生活について話すため、1日にすることの動詞をとりあげ目的語も加えて確認した。必要な語彙を導入、助詞に注意するなどして文レベルで口頭練習をした。 ・練習したことを生かして各自の一日の生活について、話題毎に一人ずつ話す。朝起きてすること、シャワーやお風呂の習慣、朝ごはん、仕事(仕事の時間、通勤方法、休み時間など)、買い物についてなど。 ・ワークシートに各自の一日の生活について記入した。個別にカタカナ語を教えたり、表記のミスなどを直す。 入門グループ(カーギー、テーテー、アウン、リー・テツ) ・宿題の自己紹介文を互いに紹介し、それについて質問しあった。 ・1日の生活について話すための基本的な動詞を紹介し、口頭練習をした。 ・動詞に時間や場所などの要素を加えて文にする方法を示し、食事、仕事、家事などの話題について簡単なやりとりを行った。 ・練習したことを生かして、自分の一日の生活について一人ずつ簡単に話した。 4. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習 ① 「私の1日」と題する初級漢字が入った読み物(20行程度)を、漢字の読み、意味を学びながら読んだ。内容についてのQA後、読み物に即した話題について各自が話す。相互に質問して答えあうなどとした。 ② 曜日読みの復習後、一～十の漢字10文字を学習した。日付と曜日を書く。(其々の誕生日の日付と曜日を書く)配布プリントの数字、助数詞を読む。 ③ さ行た行を一文字ずつノートに書いて練習した後、これまで学習した文字を使った語彙を読んだ。	
全体的コメント	
3回目となり、合同で行う「ことば ことば ことば」も生徒主体で言えるようになってきた。今回新しい学習者がお子さんを連れて参加したが、今後も新しい学習者が加わると思う。2クラスに分かれての会話クラス、3クラスに分かれての文字クラスなど、教室の雰囲気も変わって今年のカラが出来つつある。2クラスになったことでより丁寧な支援ができるようになったが、熱心に通ってくる学習者へのより良い支援を目指して、クラス分けや文字学習の進度など、更に検討を重ねていきたい。	

第4回	実施日：2016年6月2日(木) 18:30 ~ 20:30
講師	初級：樋口博(メイン)・松井治子(補助) 入門：井上紀代(メイン)・小瀧雅子(補助)
学習者	出席7名： ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、マウン・マウン・エー テテ・ルイン、カギ・リー、リン・アウン、
第4回の目標	
1. いろいろな表現、語彙を使って自分の一日の生活について話す 2. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな)	
学習項目	
合同で 1. 本日は集まりが遅かったので、先に来た学習者と会話 2. 「ことば ことば ことば」を全員で1回練習、その後学習者主導で2回練習 3. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ(ボクサン、リンリン、タンタンメイ、マウン・マウン・エー) ・先週欠席の学習者がいたので、1日の生活に関わる表現・語彙を復習 ・一日の生活で使う動詞の活用形(て形、辞書形)の確認 ・一日の生活について叙述練習(表現：～て、～て、Vます/V前にVます/VてからVます等を使いながら) ・上記話したことを基に、一日の行動を記述 入門グループ(カギー、テッテッ、アウン) ・日付、曜日のことばを紹介し、口頭練習 ・一日の生活について話すための基本動詞と語彙を復習し、シートに書いて確認した ・宿題の一日の生活についての文をフィードバックし、再度記述(～て、～てから、～ながらを紹介) 4. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習 ①短いニュースを漢字の読み方、意味を学びながら読んだ 内容理解確認のQA、その後ニュースを基に会話 ②日にちの読み方と曜日漢字の読み替え文で既習漢字の復習をし、新出漢字として「百、千、万、円」の4文字を学んだ。 ③50音表を使って「あいうえおの歌」やタッピングで単音の読みを確認、あ行からた行の単語を復習し、な行、は行を導入、一文字ずつ読み・書き練習を行った。あ行からは行までの文字を使った単語の書き取りも行った。	
全体的コメント	
1ヶ月間練習してきた「ことば ことば ことば」は台詞、動作ともだいぶ覚えた様子。本日は学習者主導で練習もできたので、ひとまず今回で完了とする。自分の一日の生活について話す練習では、昨年からの継続学習者は、昨年より多くの表現、語彙や複雑な構文を使って話せるようになり、継続学習の成果が見られた。 先々週お子さん連れで参加した学習者は2週連続欠席。託児所がないため、幼い子どもを連れての参加は難しいと判断されたか。本人は熱心に学習している様子だったので残念。	

第5回	実施日：2016年6月9日(木) 18:30 ~ 20:30
講師	初級：小形真佐子(メイン)・大上幸二(補助) 入門：松井治子(メイン)・宮下しのぶ(補助)
学習者	出席6名： ボクサン、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、エン・ビビエン、ロイ・ヌー
第5回の目標	
1. いろいろな表現、語彙を使って自分の仕事について話す 2. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな)	
学習項目	
1. 季節の話題：梅雨に入ったこと、梅の木の下に落ちていた実を拾った学習者がいて、食べ方などを話す。 2. プロソディー：「ちょっとまって」初回なので、Tの見本と共に促音のリズムを感じて楽しむ。 3. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ(ボクサン、リンリン、ビビエン) ・漢字での日付の書き方、また、天気の良い方を学ぶ。 ・仕事について、どんな仕事か、週にどの位働くか、何をするか、手順など、一人一人に話してもらう。 ・お互いの話に質問をし、知りたいことを話し合った。 ・講師が用意した仕事を紹介した作文を読み、手順などの説明に使う表現や文型を確認。 ・読んだり、話したりしたことをもとに、各自シートに自分の仕事について叙述。発表した。 入門グループ(ロイ、テッテッ、アウン) ・カレンダーを使って月名、日付、曜日を復習する。 ・一日の生活について先週の復習をかねて、一人ずつ話す。 ・2週間欠席で生活の基本語彙がまだ不確かな学習者はATと、他2名の学習者は仕事に関する語彙・表現をMTと学習した。 4. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習 ①消費税に関する短いニュースと一緒に読み、QAをしながら内容について理解を確認した。 その後ニュースを基に会話をした。 ②新出漢字として「年、上、中、下」の4文字を音訓ともに書き順と例文を学んだ。 ③2週間欠席した学習者1名が対象だったため、あ～は行のことばを読み、書き練習は自宅学習とした。	
全体的コメント	
本日もお子さん連れの学習者はお休み。子供を連れての参加は難しく思っているのかもしれないが、今後どのように対応するかは検討必要。学習者の人数は少な目だったが、一人一人の様子をよく見ることができ、仕事の話を活発に進めることが出来た。初級グループは継続の学習者で、全ての技能で日本語力が上がってきているのが分かる。入門グループの新規学習者も、こつこつと真面目に学習し、これからの伸びが楽しみに感じられた。新しいプロソディーは、促音の発話時に思い出して発音に気を付けることが出来た。	

第6回	実施日：2016年6月16日(木) 18:30 ~ 20:30
講師	初級：大上幸二(メイン)・井上紀代(補助) 入門：宮下しのぶ(メイン)・松井治子(補助)
学習者	出席8名：ボクサン、リンリン、タンダ・ミン、マウンマウン・エー、 テテ・ルイン、リン・アウン、ロイ・ヌー、カーギ・リー
第6回の目標	
1. いろいろな表現、語彙を使って交通、経路表現について話す 2. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな)	
学習項目	
合同で 1. 立って挨拶を交わし、時間どおりに開始。 2. プロソディー：「ちょっとまって」(促音練習)二回目を練習。揃うまで3度繰り返す。 3. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ(ボクサン、リンリン、マウンマウン、タンダミン) ・漢字での日付の書き方、また、天気の違い方を学ぶ。 ・交通の学習として交差点、信号、乗り降り、曲がり方の表現を話す。 ・自宅からクラスまでの交通経路、乗り換え、所要時間について発表する。 ・講師が用意した旅行時の予約に関する資料を読み、必要となる表現や文型を確認。 入門グループ(ロイ、テッテ、アウン、カーギ) ・挨拶、日付、カレンダー、日付の歌 ・乗り物の語彙 ・「のる、おりる、のりかえる」の導入 ・自宅から神谷町までの経路を口頭で説明してから書く。 ・簡単な路線図を見て、○駅から○駅までの経路説明を書く。 ・よく行く場所への経路を書く。 4. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習 ① 電話、メールを使った詐欺事件のニュースを読み、QAをしながら内容について理解を確認した。 ② 新出漢字として「半、分、人、子」の4文字を学んだ。(書き順、音訓読み、例文) ③ ひらがな「ま・や行」単音と語意の書き練習。	
全体的コメント	
梅雨の季節で本人、また身内に体調を崩している学習者がいるが、熱心に授業参加している。初級グループの漢字、かなの書き方も向上。経路説明では長い文となりがちだが、助詞、文型の正しい使い方を再確認した。入門グループ会話クラスはすべての時間を合同で行った。本日の学習項目はMT, ATが個別にフォローする形でレベル差をカバーすることができ、お互いの交通経路の情報を共有することで学習を楽しむことができた。	

第7回	実施日：2016年6月23日（木） 18:30 ～ 20:30
講師	初級：小瀧雅子（メイン）・小形真佐子（補助） 入門：新野佳子（メイン）・樋口博（補助）
学習者	出席8名： ボクサン、リンリン、タンタン メイ、エン ビビエン テテ ルイン、カーギ リー、リン アウン、ロイ ヌー
第7回の目標	
1. いろいろな表現、語彙を使って交通、経路、道順について話す 2. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな）	
学習項目	
合同で 1. 立って挨拶を交わし、時間どおりに開始。 2. プロソディ：「ちょっとまって」（促音練習）手でリズムをとりながら数回行う。 3. 歌：「たなばた」7月7日がたなばた祭りであることを話し、まず講師たちが紹介をした後、全員で数回歌う。 4. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ（ボクサン、リンリン、タンタン メイ、エン ビビエン） ・前回の復習として、道案内のときの表現を確認した。 ・最寄駅から自宅までの地図を描き、それを見ながら行き方を口頭で説明してもらい、文章化した。 ・7月7日にクラス全員で増上寺の七夕祭りに参加予定のため、地図を見ながら教室から増上寺までの行き方を、学習した表現を使って話した。 入門グループ（ロイ、テッテ、アウン、カーギ） ・挨拶、日付、カレンダー、天気、季節 ・乗り物の語彙 ・「のる、おりる、のりかえる」、自宅から神谷町までの経路の復習（口頭+書き） ・道案内の言葉（交差点、信号、角、横断歩道、まっすぐ、右（左）に曲がるなど）導入後、道案内練習 ・光明寺から増上寺まで徒歩でいく経路説明 ・会話（「～たことがある（ない）、～たい」を使って経験や行きたい場所、その理由を話す、聞きあう） 5. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の3クラスに分かれて学習 ① 英国国民投票についての短いニュースを読み、漢字の読み、内容理解確認のQAを行い、意見を述べ合った。 ② 前回の復習をしてから、新出漢字（男、女、足、力）の読み書き、熟語、例文を学習した。 ③ ひらがな「ら・わ行」単音導入と語彙の書き練習。 ひらがな50音総復習 50音清音復習プリント配布	
全体的コメント	
プロソディや歌など合同で行う時間を少し長めにとったが、レベルの違う人も一緒に和やかに活動した。今後、再来週の七夕行事の外出などもあるので、クラスとしての一体感が少しずつ高まっていくとよいだろう。前回と今回学習した交通経路や家までの行き方は、助詞の使い方や説明方法などが難しいものも多いが、繰り返し練習することにより、少しずつ身についてきている。実生活でも説明する必要があることなので、自信を持って言えるようになってほしい。	

第8回	実施日：2016年6月30日（木） 18:30 ～ 20:30
講師	初級：井上紀代（メイン）・小瀧雅子（補助） 入門：樋口博（メイン）・新野佳子（補助）
学習者	出席6名： ボクサン、タンタン メイ、マウン マウン エー テテ ルイン、カーギ リー、リン アウン
第8回の目標	
1. セタについて（増上寺セタ祭キャンドルナイト2016、短冊書きの練習） 2. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな）	
学習項目	
合同で 1. 人数が揃うまで挨拶、雑談 2. 歌：「たなばた」 3. プロソディ：「ちょっとまって」（促音練習）手でリズムをとりながら数回練習した 4. 増上寺セタ祭キャンドルナイト2016について 来週戸外学習に備え、増上寺の由来、セタ祭り、集合場所と時間の確認等を合同で行った 5. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ（ボクサン、タンタン メイ、マウン マウン エー） ・セタについて学習（セタの物語を読んだ） ・短冊の表現と語彙の学習（願い事を書く際の表現と文型を学習し、それぞれの願い事を発表して書いた） ・短冊の表現から、動詞の分類と可能形の作り方を学習した 入門グループ（テテ ルイン、カーギ リー、リン アウン） ・合同学習に引き続き、セタについて学習 ・短冊に使う表現学習と来週に備えて各自の願い事を考えた ・道案内の言葉（交差点、信号、角、横断歩道、まっすぐ、右（左）に曲がるなど）先週の復習 ・光明寺から増上寺まで徒歩でいく経路説明と口頭練習した文の記述 5. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の3クラスに分かれて学習 ① 前回到引き続き、英国国民投票に関する短いニュースを読んで、漢字の読みと内容についてのQAを行った。 ② 前回の復習をした後、新出漢字（目、口、耳、手）の読み書き、熟語、例文を学習した。 ③ ひらがな：濁音 単音導入と語彙の書き練習	
全体的コメント	
いつものプロソディや歌に加えて、来週の増上寺セタ祭り参加に向けての事前学習を合同で行った。今年度初めての戸外学習を皆楽しみにしているようで、講師の説明に熱心に耳を傾け質問もでた。クラスに分かれてのセタの話と短冊についての学習はそれぞれレベルに合わせた教材を使って行った。両クラスとも2人の講師がいるのできめ細かい個別対応ができています。継続学習者による初級クラスは、特に読解力の向上が感じられ、短時間でまとまった文章を読んで内容が理解できるようになってきた。	

第 9 回	実施日： 2016 年 7 月 7 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：宮下しのぶ（メイン）・新野佳子（補助）入門：小形真佐子（メイン）・樋口博（補助） 他参加講師 小瀧雅子
学習者	出席 9 名： ボクサン、タンタン メイ、マウン マウン エー、リンリン、エン ビビエン、ベネディ タ カーム テテ ルイン、カーギ リー、リン アウン
第 9 回の目標	
1. 増上寺で行われる七夕祭りに参加し、日本の伝統行事に親しむ。 2. 第 7 回で学習した増上寺までの徒歩経路を、実際に地図を見ながら歩いて確認する。 3. とともに外出を楽しむことで、教室の学習者同士の親睦を図る。	
概要	
6：30 光明寺門前集合 6：40 学習者 9 名、参加講師 5 名で出発 第 7 回で配布した地図を見ながら、学習者先導で増上寺まで歩いた。入門学習者は、「右・左に曲がる、まっすぐ行く」等の表現も復習しながら歩いた。 6：55 増上寺着 東京タワーをバックに全員で記念撮影 第 8 回の学習を思い出しながら、各自七夕の短冊を書き、本堂前広場に設置された笹に結び付けた。 同日開催の「和紙キャンドルナイト」で、手すき和紙で作られたキャンドルによる天の川を鑑賞した。 7：45 増上寺出発 東京タワーへ 天の川イルミネーションに飾られた東京タワーを外から鑑賞してから、タワー 2 階のフードコートで夕食をとった。 8：40 東京タワー出発 神谷町駅へ 8：55 神谷町駅 解散	
全体的コメント	
集合に遅れる学習者がいることを見越して、第 1 陣第 2 陣での出発を想定していたが、全員が定刻に集まった。今回の外出授業を楽しみにしている様子が見受けられた。第 7 回、第 8 回の準備学習の成果で、増上寺までの道のりを地図を頼りに迷うことなく歩き、七夕の短冊もそれぞれの願いをこめて書いた。日本の伝統行事に親しむいい機会となった。夕食時は、初級入門の別なく講師とともにテーブルを囲み、日本語での会話を楽しみながら、クラスの親睦を図ることができた。	

第 10 回	実施日：2016 年 7 月 14 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：新野佳子（メイン）・樋口博（補助）入門：松井治子（メイン）・宮下しのぶ（補助）
学習者	出席 6 名：ボクサン、タンタン メイ、リンリン、テテ ルイン、カーギ リー、リン アウン
第 10 回の目標	
1. 動詞の活用 を知る①（1 グループの動詞の活用） 2. 動詞の活用形が実際の会話の中でどのように使われるかを知り、会話練習を行う。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな）	
概要	
合同 1. 挨拶、日付、天気（はれのち雨） 2. プロソディ：「ちょっと まって」（促音練習） 3 拍、4 拍を手を打ちながら数回行う（拍のリズムを感じてもらう） 3. 動詞活用：動詞絵カードで意味を確認後、一つの動詞の形が変わっていくこと、そのルールを 50 音表で示しながら、説明した。本日は 1 グループの動詞を扱い、て形を加えた 6 つの活用形を紹介し、活用の仕方をまとめた。口慣らし練習後、一人ずつ既習動詞に関して 6 つの形に活用させた。 5. 会話クラス 2 グループに分かれて学習 初級グループ（ボクサン、タンタン メイ、テテ ルイン、リン アウン） ・動詞活用（1 グループ）復習：活用の作り方を確認後、各自で動詞を活用させて WS に書く。 ・会話練習：モデル会話を聞き、動詞の活用形が会話の中でどのように使われるか知り、意味を確認したあと、各自で練習。丁寧な言葉と友達の言葉を紹介する。友達のことばのイントネーションなどを練習後、友達同士の会話もやってみた。 入門グループ（カーギ リー） ・先週の戸外学習の写真を見ながら、当日の行動やセタの説明、催しへの感想などの QA を行った。 ・動詞活用練習に使用した絵カードの動詞の意味を確認してから、活用の復習をした。 ・「行く」を使って、誘いかけのモデル会話を聞いたあと、役割練習を行って、口慣らしをした。 ・「飲む」「遊ぶ」「会う」でも、同様の会話パターンをその場で作りながら練習した。 5. 文字クラス 3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習 ① 10 日に行われた参議院選挙に関する短いニュースを読んで、漢字の読みと内容についての QA を行った。 ② 新出漢字（父 母 先 生）の読み書き、熟語、例文を学習したあと、漢字を使った文を作り、シートに記入。 ③ 例を示しながら長音の規則を説明し、シートに長音語彙を記入した。	
全体的コメント	
日本に長く生活している外国人で「行きます」、「行く」、「行って」などを耳にしている、それらが同じ動詞「行きます」の活用だということに気付かず、意味が分からないということがよくある。今回から 3 回、動詞の活用を取り上げて整理することとし、初回は 1 グループの動詞を扱った。活用を一つずつ取り上げるのではなく、一度に全部の形を提示したことで、全体像を把握してもらうことができた。出席者がいつもより少なかったのが残念だったが、こうした活用ルールを提示される機会が余りないこともあり、皆、熱心に取り組んだ。	

第 11 回	実施日： 2016 年 7 月 21 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：樋口博（メイン）・松井治子（補助）入門：井上紀代（メイン）・新野佳子（補助）
学習者	出席 5 名：ボクサン、リンリン、テテ ルイン、カギー・リー、ロイ・ヌー
第 11 回の目標	
1. 動詞の活用 を知る②（2 グループの動詞の活用） 2. 動詞の活用形が実際の会話の中でどのように使われるかを知り、会話練習を行う。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな）	
概要	
合同 1. 歌：「おさかなてんごく」 三々五々学習者が集まるのを待ちながら歌の練習、および歌詞カードの魚のイラストを見ながら魚名の練習 2. 挨拶、日付・曜日、天気（雨） 3. プロソディ：「ちょっと まって」（促音練習） 3 拍子と 4 拍子で手を打ちながら数回練習 4. 動詞活用： 50 音表ラミをホワイトボードに貼り、ラミの上部分に板書した下記活用形を示しながら、先週の復習として 1 グループ動詞の絵カードを見せながら活用練習。その後、2 グループの動詞の活用を確認して口頭練習。先週休みだった学習者がいたので時間を長めに取って練習。 5. 会話クラス 2 グループに分かれて学習 初級グループ（ボクサン、リンリン、テテ ルイン） ・口頭で確認後、ワークシートに 1、2 グループ動詞の活用形記入。 ・会話練習：モデル会話を聞いて意味を確認、動詞の活用形が会話の中でどのように使われるかを知る。 ・ロールプレイ練習：その後、動詞や場面をアレンジして会話練習。 入門グループ（カギー・リー、ロイ・ヌー） ・1、2 グループ動詞の活用：WS で意味と作り方を確認して、活用を記入。 ・会話練習：1 グループ「行く」、2 グループ「食べる」のモデル会話を聞き、役割練習をした。WS の会話を発展させて、自由にアレンジする練習も行った。 6. 文字クラス 3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習 ① 短いニュースを読んで内容について QA、その後内容に関する会話練習 ② 前回の漢字を復習後、「学、校、友、本」の読み書き、熟語、例文を学習し、漢字を使った文を作った。 ③ 家族名称を中心にひらがな長音を学習。自分と相手の親族名称の使い分けと自分の家族について会話練習	
全体的コメント	
動詞の活用を取り上げて整理する回の 2 回目。今回は前週休みの学習者もいたことから、1 グループの動詞活用の復習後、2 グループの動詞の活用を練習した。特に入門の学習者にとっては初めて学習する内容であったと思われるが、しっかりと熱心に取り組んでいた。前週、今週と欠席の学習者が多くいたことが残念ではあるが、来週は 3 回目として 3 グループの動詞を扱う予定。	

第12回 実施日：2016年7月28日(木) 18:30 ~ 20:30	
講 師	初級：小形真佐子(メイン)・大上幸二(補助) 入門：小瀧雅子(メイン)・松井治子(補助)
学習者	出席7名：ボクサン、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、マウン・マウン・エー、 タンタン・メイ、カギー・リー
第12回の目標	
1. 動詞の活用を知る③(グループ3の動詞の活用) 2. 動詞の活用形が実際の会話の中でどのように使われるかを知り、会話練習を行う。 3. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな)	
概要	
合同 1. 歌：「おさかなてんごく」 学習者が集まるのを待ちながら、音楽に合わせて魚の名前を楽しむ。 2. 挨拶、日付・曜日、天気(晴れ) 3. プロソディ：「ちょっと まって」(促音練習) 3拍子と4拍子で手を打ちながら練習。促音に慣れてきており、一人ずつでも披露。 4. 動詞活用： 動詞絵カードを使って、グループ1, 2の動詞の活用を復習。50音表で示しながら、グループ1の動詞の音の変化、グループ2の動詞との活用の違いを確認。グループ3の動詞の活用を導入して練習。 5. 会話クラス 2グループに分かれて学習 初級グループ(ボクサン、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、マウン・マウン・エー、タン・タン・メイ) ・グループ3「来る」「する」について、活用の変化を基本的な形のスキットの中で示して、役割練習。 ・会話練習：モデル会話を聞いて意味を確認、動詞の活用形が会話の中でどのように使われるかを知る。 丁寧体の会話と普通体の会話の違いを感じながら、ペアで練習し、会話を披露した。 入門グループ(カギー・リー) ・50音表をポイントしながらグループ1, 2, 3の活用を復習し、慣れたところで見ないで言ってもらった。 ・グループ3「来る」「する」の簡単な会話を練習した。 6. 文字クラス 3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習 ① 短いニュースを読んで内容についてQA、その後内容に関する会話練習 ② 前回の漢字を復習後、「毎、何、左、右」の読み書き、熟語、例文を学習し、漢字を使った文を作った。 ③ ひらがな拗音の書き練習、拗音を含む言葉の読み練習を行った	
全体的コメント	
動詞の活用を取り上げて整理する回の3回目。グループ3の動詞の活用を紹介し、グループ1, 2の動詞を含めて活用を総復習、会話練習を行った。活用を体系的示して会話の中で練習することで、学習者自ら音の変化に気づくようになり、少しずつ実際の運用力にもつながっているようだ。今後も短時間でも活用練習を継続し、繰り返し身につけて自然な発話に繋がることを目指したい。今期新しく入った学習者も徐々に力をつけ、ほかの人と隔たりなく話題について来られるようになってきている。文字学習も順調に進んでおり、どのクラスも進歩が感じられる。	

第 13 回	実施日： 2016 年 8 月 4 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：大上幸二（メイン）・井上紀代（補助） 入門：宮下しのぶ（メイン）・松井治子（補助）
学習者	出席 7 名：ボクサン、リンリン、マウン・マウン・エー、タンタン・メイ、テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー
第 13 回の目標	
1. 動詞 3 グループそれぞれの復習 2. 日本のお盆などの夏の行事や風物詩を説明し、日本文化に親しんでもらう。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. 歌：「おさかなてんごく」 学習者が集まるのを待ちながら、音楽に合わせて魚の名前を楽しむ。 2. 挨拶、日付・曜日、天気（晴れ） 気温 31 度。 3. プロソディ：「ちょっと まって」（促音練習） 3 拍子と 4 拍子、5 拍子で手を打ちながら練習 4. 動詞活用の復習： ・これまで学習した 3 つの動詞グループの活用を絵カードを見せ、全員で発話。間違った動詞は繰り返し確認した。 5. 会話クラス＝2 グループに分かれて学習 * 初中級グループ（ボクサン、リンリン、マウン・マウン・エー、タンタン・メイ） ・会話練習：夏の代表的行事の「お盆」ほか、風物詩を見せながら説明し、質問への受け答えをした。 * 入門グループ（テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー） ・明後日、一昨日等の時の表現、日付の特殊読みの復習。 ・「お盆」関連の行事を写真や読み物で紹介し、日本での体験や、自国での習慣について話し合った。 6. 文字クラス＝3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習。 ① 短いニュースを読んで内容について QA、その後内容に関する会話練習 ② 前回の復習の後、新規漢字を導入し、例文を読んで、書き練習をした。 ③ カタカナ文字全体の読みチェックをしたあと、「ア・カ・ガ行、長音」について読み書きの練習を行った。 ④	
全体的コメント	
これまで 3 回の動詞活用練習を行ってきたが、より確実に使えるよう、再度復習を行った。特殊な動詞の活用変化に一部つまづくこともあるので、その時は機を逃さず、繰り返し練習を行いたい。お盆休みを目前に控え、学習者に興味のあるトピックスによって、生き生きと集中した会話練習ができた。	

第14回 実施日：2016年8月18日(木) 18:30 ~ 20:30	
講師	初級：小瀧雅子(メイン)・小形雅子(補助) 入門：新野佳子(メイン)・井上紀代(補助)
学習者	出席7名：ボクサン、リンリン、マウン・マウン・エー、タンタン・メイ、テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー
第14回の目標	
1. 動詞3グループそれぞれの復習 2. 病気についての語彙や表現を学び、実際の場面で使えるようにする 3. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな・カタカナ)	
概要	
合同 1. 日本のお盆と大文字 京都に行った講師がお盆の習慣と京都の大文字について写真を見せながら説明した。皆、珍しいようで、実際の大文字を想像しながら説明を聞き、質問していた。 2. 季節の歌 魚天国 すでに何回も歌っているの、サビの部分は上手に歌えていた。 3. 会話クラス=2グループに分かれて学習 ※初中級グループ(ボクサン、リンリン、マウン・マウン・エー、タンタン・メイ) ・会話学習 WS 熱中症を知っていますか 読み物、語彙、表記、内容のディスカッションなど熱中症をテーマに、様々な角度から学習した。 ※初級、入門グループ(テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー) ・身体部位の名称 頭・首・肩・腕・お腹・腰など大きい部位のほか、まつ毛、眉毛、其々の指の名称、かかと、つま先など細かいところまで学習したが、さらに学習者の興味に応じて、太もも、ふくらはぎなども扱った。WSに記入した。 ・病気の症状の言い方 身体名称を加えた「～が痛い(頭、おなかなど)」「～が悪い(気分、気持ちなど)」「～がでる(咳、くしゃみなど)」「～がある(熱、はきけなど)」を学習 4. 文字クラス=3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習。 ①熱中症のWSの中から学習者のレベルに合わせた重要な漢字を学習した。 ②新規漢字(東西南北)を導入し、書き練習のあと、漢字を含んだ例文を読み、ディクテーションを行った。 ③カタカナ50音の読み練習の後、前回復習と「サ・ザ・タ・ダ行、促音」について読み書き練習を行った。	
全体的コメント	
勉強会も中盤を迎え、学習者も落ち着いて学んでいる。初中級学習者については、漢字や語彙力が増していることが感じられるが、まだ発話の際にはその成果がそれほど表れていないようで、決まったことばだけを使った簡単な単文の連なりになる。今後は表現したいことがもう少し話せるよう、発話に焦点を置いて学習してみてもどうか。身体部位の名称や病気に関する表現は日常生活に必要なもので、学習者の関心は高かった。もう少し早く取り上げてよかったかと思う。入門学習者にとって沢山の新規語彙を覚えるのは大変な面もあるが、自分から質問し熱心に学習した。	

第15回 実施日：2016年8月25日(木) 18:30～20:30	
講 師	初級：井上紀代(メイン)・新野佳子(補助) 入門：樋口博(メイン)・大上幸二(補助)
学習者	出席8名：ボクサン、リンリン、エン・ビビエン、タンタン・メイ、テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー、リー・テツ
第15回の目標	
1. 動詞3グループの活用形および活用形を使った表現の練習 2. 病院の診療科名、医者とのやりとりについて学ぶ 3. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな・カタカナ)	
概要	
合同 1. ウォーミングアップ会話 2. 動詞の活用練習： これまで学習した動詞の活用をまず、3つのグループごとに復習後、ランダムにも練習した。全体→個人 3. プロソディ「ことばのけいこ」(拗音の練習)：初めて導入。全員でリズムカルに楽しんで練習できた。 4. 会話クラス=2グループに分かれて学習 ※初中級グループ(ボクサン、リンリン、エン・ビビエン、タンタン・メイ) ・会話練習：普通体中心にアドリブも入れて自由に練習 ・WS「総合病院と医院(クリニック)」：読み物、語彙、表現、内容のディスカッションなど病院、診察をテーマに、様々な角度から学習。身体名称、症状の言い方、診療科、病院での会話を取り上げた。 ※初級、入門グループ(テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー) ・さまざまな動詞活用形、表現を含む会話文を使ったロールプレイ会話練習 ・身体語彙名称と病気の症状の言い方(先週の復習) ・診療科 WSを使ってどんな症状のとき、どの診療科に行ったらいいかを学習 ・医者とのやりとりのWSを使い、動作を交えて学習者-Tでロールプレイ会話練習 ・会話に出てきた表現「～でもいいですか」および「～ないでください」を取り上げて学習 5. 文字クラス=3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習。 ① 病院、診察のWSの中から学習者のレベルに合わせた重要な漢字を学習した。 ② 新規漢字(牛馬貝魚)を導入し、ノートに書いて練習後、漢字を含んだ例文を読み練習を行った。 ③ 50音表を使用して前回までの復習をした後、カタカナ「ナハババ行」を学習した。 6. 歌「世界に一つだけの花」(合同)：Youtubeに合わせて練習。歌詞の意味を一通り説明した。	
全体的コメント	
身体部位名称や症状の言い方など、病気関連の語彙・表現は、継続学習者にとって忘れていたものが多く、いい復習の機会となった。日本語ができないために病院で困った経験談も聞かれ、日常生活で重要なトピックであることを実感した。動詞の活用練習は、両クラスともずいぶん滑らかに言えるようになってきた。今後も継続して取り上げ、自然な会話に繋がればと思う。	

第16回	実施日：2016年9月1日（木） 18:30 ～ 20:30
講師	初級：小瀧雅子（メイン）・宮下しのぶ（補助） 入門：大上幸二（メイン）・小形真佐子（補助）
学習者	出席7名：ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー、トゥ・シャン
第16回の目標	
1. 動詞3グループの活用形および活用形を使った表現の練習 2. 薬の種類、用法について学ぶ 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同学習 - 自己紹介：新規学習者が参加したので、全員簡単な自己紹介をした。 - 日にちの復習：イレギュラーな日の言い方を「日にちの歌」も歌いながら復習した。 - プロソディ「ことばのけいこ」（拗音の練習）：2回目だったので、はじめから全員で行った後、グループ、さらに一人ずつ行った。 会話クラス＝2グループに分かれて学習 ※初中級グループ（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ） - 会話練習：モデル会話を提示した後、学習者たちがそれぞれ応用会話を考えた。 - 薬についてのWS：薬の種類、効能、用法などを学習し、実際の薬の箱を見ながら書いてあることを読み取る練習をした。 ※初級、入門グループ（テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー、トゥ・シャン） - 動詞活用の復習を行った。 - 本日のテーマ、代表的な薬の種類と用法（内服、外用の別）を、処方された薬袋の実物を見ながら学習した。 - 病気を防ぐ方法、生活習慣病についても話し合った。 文字クラス＝3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の3クラスに分かれて学習。 - 薬のWSの中から学習者のレベルに合わせた重要な生活漢字を学習した。 「雨、天、気、車」の読み書き、熟語、例文を学習した。 - 特殊語を含むカタカナの語彙を学習した。新規学習者は、ひらがなの書き練習を行った。	
全体的コメント	
新しい学習者はまだ来日して1か月ということで、ほとんど日本語を話すことはできないが、積極的にクラスに参加していた。薬の関連の学習では、日本滞在のかなり長い継続学習者から「日本語が読めないで日本では薬を買えない、買ったことがない」という発言もあった。みな熱心に学習し、日本でのQOLのためにも大切なトピックだと改めて感じた。	

第17回 実施日：2016年9月8日(木) 18:30～20:30	
講師	初級：樋口博(メイン)・宮下しのぶ(補助) 入門：大上幸二(メイン)・新野佳子(補助)
学習者	出席9名：ボクサン、リンリン、エン・ビビエン、タンタン・メイ、マウン マウン エー テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー、トゥ シャン
第17回の目標	
1. 動詞3グループの活用形および活用形を使った表現の練習 2. 災害について学ぶ 3. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな・カタカナ)	
概要	
合同 1. ウォーミングアップ会話 2. 歌「世界に一つだけの花」：You tube に合わせて2回、その後音楽なしで1回練習 3. プロンディ「ことばのけいこ」(拗音の練習) 4. 会話クラス=2グループに分かれて学習 ※初中級グループ(ボクサン、リンリン、エン・ビビエン、タンタン・メイ、マウン マウン エー) ・WS「台風や大雨の時気をつけること」：災害に関する語彙、表現や注意すべきことについて学習。 その後台風や大雨に関する話題をテーマに会話をした。 ・WSで出てきた表現を使って、口頭で例文作り、その後WSに記入。 ・本日学習した内容を参考に、漢字を含む文のディクテーション ※初級、入門グループ(テテ・ルイン、リン・アウン、カギー・リー、トゥ シャン) ・身体の痛いところの説明、および動詞活用(第三グループ)の復習 ・WS「災害から みをまもるには?」：起こり得る災害の呼称を確認し、特に地震、台風、雷への対応の仕方を学んだ。 ・WS 災害を回避、軽減するための準備の仕方、避難時に携帯すべき防災袋に何を入れるか確認。 ・WS ニュースで報道される警報の種類と対応について確認。 5. 文字クラス=3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ(①)、漢字入門グループ(②)、かな学習グループ(③)の3クラスに分かれて学習。 ① WS「災害(台風・大雨)」の中から学習者のレベルに合わせた重要な漢字を学習した。 ② 「門、午、大、小」の読み書き、熟語、例文を学習した。 ③ 漢字学習に入り、基本漢字30字を学習した。訓読みと語彙を増やすことを中心に学習した。 ④ ひらがな単音の読みを確認し、清音語彙を覚えて書く練習をした。	
全体的コメント	
台風や大雨など、時節柄の災害関連の話題は、継続学習者にとっても身近なトピックであり、非常時にどうすればよいかなどを確認するいい機会となった。学習者の母国でも地震等の災害や「蚊」を媒介とする病気の感染が問題となっており、いろいろな会話をしながら災害について話し合うことができた。 もうすぐ日本を離れる学習者や、今週母国から家族が来日する学習者など個々いろいろな動きがあり、本日のトピックに沿った学習以外でも会話に花が咲いた。	

第18回	実施日：2016年9月15日（木） 18:30 ～ 20:30
講師	初級：松井治子（メイン）・大上幸二（補助）入門：小形真佐子（メイン）・樋口博（補助）
学習者	出席6 名：ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、テテ・ルイン、カギー・リー、トゥ シャン
第18回の目標	
1. 動詞3グループの活用形および活用形を使った表現の練習 2. 防災について学ぶ 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. プロンディ「ことばのけいこ」（拗音の練習） 2. 歌「世界に一つだけの花」：アカペラで2回練習 3. 動詞活用口慣らし（入門レベルの学習者に合わせて、3つのグループを簡単に復習） 4. 会話クラス＝2グループに分かれて学習 ※初中級グループ（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ） ・WS「備えあれば憂いなし」：地震に対する備えとして、注意すべきことを、イラストを見ながら、文づくりを行い、語彙、表現の学習を行った。 ・WS非常用持ち出し袋を主として、災害に備えて用意するものの呼称を確認し、避難所の調べ方も学習した。 ・本日学習した内容から漢字を取り出し、使い方、意味を確認した。 ※初級、入門グループ（テテ・ルイン、カギー・リー、トゥ シャン） ・国で起きた災害について話し、災害はどんなものがあるか復習しながら言葉を思い出した。 ・地震に備えるをテーマに、地震がおきたらどうなるのか認識し、何をしておかなければならないかを考えた。 ・家具の転倒防止器具はどんなものか、家に備えておくもの、非常用持ち出し袋の中身を学習した。 5. 文字クラス＝3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の3クラスに分かれて学習。 ① WS「災害への備え」の中から学習者のレベルに合わせた重要な漢字を学習した。 ② 「高 安 新 古」の読み書き、熟語、例文を学習した。 ③ 前回に続き、能験 N5 レベル相当漢字（16文字）の音・訓読みと語彙を増やすことを中心に学習した。 ④ ひらがな単音の読みを確認し、清音語彙を覚えて書く練習をした。	
全体的コメント	
災害への備えをトピックに、地震の際の避難の注意点、備えておくべき防災グッズなどを学習した。非常用持ち出し袋を用意している学習者はいなかったが、地震、台風などの災害のニュースも多い昨今、災害に備えて準備しておくことの必要性を感じたと思われる。東日本大震災時に来日していた学習者もあり、経験がある学習者は、実感を伴って防災の学習ができた。来日間もなく経験が少ない若い学習者にも、日本での危険性や備えの大切さを少しでも感じてもらえればよいと思う。短い時間であるが、始めの合同の歌やプロンディの学習はその後レベル別に分かれて学習している教室の雰囲気や和やかにしており、学習者も助け合いながら楽しそうに取り組んでいる。	

第 19 回 実施日：2016 年 9 月 29 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：宮下しのぶ（メイン）・松井治子（補助） 入門：小瀧雅子（メイン）・井上紀代（補助）
学習者	出席 名：ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、リン・アウン、ズン、ニャン
第 19 回の目標	
1. 動詞の活用パターンに慣れる 2. Show and tell の手法を使い、「分かり易くまとめて話す」「内容について質問する」力をつける。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字）	
概要	
合同 1. 自己紹介 2. プロソディ「ことばのけいこ」 3. 歌「世界に一つだけの花」： 4. 動詞活用（学習者が取り上げた動詞で活用練習） 5. 会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、ズン） ・新規学習者と既存の学習者として、家族や仕事、好きな日本の食べ物等について聞き合った。 ・本日から 3 回に分けて行うトピック「show&tell」について説明し、講師のモデルを見せて、Q A を行った。 ・本日の「show&tell」の内容を文章化したものを読み、内容理解を深めた。 ・来週と再来週の発表担当者を決め、発表の構成について W S を見ながら確認した。 ※初級、入門グループ（リン・アウン、ニャン） ・講師が助けながら新規学習者と既存の学習者として仕事や学校のことなどを聞き合った。 ・本日から 3 回に分けて行うトピック「show&tell」について説明し、講師のモデルを見せて、Q A を行った。 ・本日の「show&tell」の内容を文章化したものを読み、質問してもらった。 ・「show&tell」で使用する物の形容・表現の仕方について学習した。 ・本日出席の 2 名が来週発表することを決め、発表の内容について考えた。 6. 文字クラス＝3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、既習漢字のチェック（③）の 3 グループに分かれて学習。 ① 短いニュースを読んで、内容理解を図った。 ② 「長、多、少、早」の漢字について学習した。 ③ 日本語能力試験 N4 と N5 レベルの漢字をチェックした。	
全体的コメント	
新規学習者を 2 名迎えたが、残念ながら欠席者が多く、結局全部で 6 名の出席に留まった。新しく入った 2 人は合同やグループで積極的に教室活動に参加した。本日からトピック「show & tell」では、各グループで講師のモデルを見た後、活発な会話が弾んだ。来週からは学習者が発表するが、それぞれのレベルに応じて「まとめて話す」「質問する」「質問に答える」ことで、話す力の伸長を図りたい。文字学習は、特に入門グループのレベルが細分化してきており、各学習者のニーズにあった指導を行うために、工夫が必要である。	

第 20 回 実施日： 2016 年 10 月 6 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：井上紀代（メイン）・樋口博（補助）入門：新野佳子（メイン）・松井治子（補助）
学習者	出席 10 名： ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、ズン、マウンマウンエー、テテ・ルイン、リン・アウン、トゥ シャン、チャン、ニャン
第 20 回の目標	
1. 動詞の活用パターンに慣れる 2. Show and tell の手法を使い、「分かり易くまとめて話す」「内容について質問する」力をつける。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. プロソディ「ことばのけいこ」（拗音の練習） 2. 歌「世界に一つだけの花」： 3. 動詞活用口慣らし（学習者を取り上げた動詞で活用練習） 4. 自己紹介 5. 会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 5 名（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、マウンマウン・エー、ズン） Show&Tell：本日担当の学習者 2 名が発表し、他の学習者と QA を通して内容をシェアした。 発表者 Z「ベトナムの竹製トンボ」、発表者 R「ミャンマーの jade（ヒスイ）について」 内容を確認しながら語彙を紹介し、表現を修正した。他の学習者からは活発に質問があり、話が弾んだ。 ※初級、入門グループ 5 名（テテ・ルイン、リン・アウン、ニャン、チャン、トゥ シャン） ・形容詞復習 形容詞の接続復習 ・SHOW&TELL 当番の学習者 2 人が発表。事前に良く準備してきていた。「父からもらったカバン」、「ミニヨン」と題して、実物のカバン、写真を見せながら、自分が大切にしているものについて、その理由も述べてまとまりのある話ができ、内容について T から内容確認の QA、その後、学習者から質問を受けたり、発表者が補足の説明をした。 5. 文字クラス＝3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習。 ① 短いニュースを読んで、内容理解を図った。 ② 「行 来 食 飲」の読み書き、熟語、例文を学習し、例文での QA をした後、今日の漢字を使って文作り。 ③ ひらがな：濁音・半濁音の入ったことばの読み、書きの練習をした。	
全体的コメント	
先週に続きベトナムからの学習者が新たに 1 名加わり、賑やかになりつつある。本日は「Show & Tell」発表の 1 回目、両グループでそれぞれ 2 名の学習者が発表した。各自持参した実物を見せながらまとまった話をする事ができ、他の学習者からも積極的に質問があり、話が広がった。まとめとして再度合同でも発表する時間を取ることができれば更に「話す力」が伸びると思う。新規学習者が増え、レベルとニーズに応じたグループ分けを検討する必要があるようだ。	

第 21 回 実施日：2016 年 10 月 13 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：松井治子（メイン）・小瀧雅子（補助） 入門：樋口博（メイン）・小形真佐子（補助）
学習者	出席 9 名：ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、テテ・ルイン、リン・アウン、トゥ シャン、レー・ティエ・ズン、グエン・チィ・バン・チャン、ヴィ・ヴァン・ニャン
第 21 回の目標	
1. 動詞の活用パターンに慣れる 2. Show and tell の手法を使い、「分かり易くまとめて話す」「内容について質問する」力をつける。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. プロンディ「ことばのけいこ」（拗音の練習） 2. 歌「世界に一つだけの花」： 3. 動詞活用口慣らし（学習者を取り上げた動詞で活用練習） 4. 自己紹介 5. 会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 7 名（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、ニャン、ズン、テテ・ルイン、リン・アウン） Show&Tell2 回目：本日担当の学習者 2 名が発表した。 発表者 Ta「板チョコクッキー」、発表者 Te「ミャンマーの家」 発表を聞いて、まず、他の学習者から質問を受けた。質問への答えを取り入れて内容を膨らませながら、適切な語彙・表現に修正し、完成したものを再度発表した。 ※初級、入門グループ 2 名（チャン、トゥ シャン） ・各自の好きな食べ物・飲み物・季節・動物等についての文の叙述、疑問詞を使った Q A 練習。 ・最近参加した 2 名なので、来日時期、住んでいる所、家族、仕事等を含めた自己紹介を作成。次週までに覚えてきてみなに発表することにした。 ・言い方が難しかった日付を含めカレンダーを読む練習。 6. 文字クラス＝3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習。 ① 短いニュースを読んで、既習漢字の読みを確認し、読み練習と内容の理解に取り組んだ。 ② 「入 出 立 見」の音訓読み、書き練習、熟語、例文を学習し、今日の漢字を使って文作り。 ③ ひらがな：促音・長音の入ったことばの読み、書きの練習をした。	
全体的コメント	
会話クラスは入門グループから初中級グループに 3 名移動し、初中級グループでは 7 名で「Show & Tell」発表の 2 回目を行った。話したい内容を適切に表現するにはどのように修正したらよいかを皆で考えながら、まとめていった。新しい語彙・表現の使い方の学習として有効であった。	

第 22 回	実施日： 2016 年 10 月 20 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：新野佳子（メイン）・井上紀代（補助） 入門：宮下しのぶ（メイン）・大上幸二（補助）
学習者	出席 11 名：ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、マウン・マウン・エー、テテ・ルイン、リン・アウン、トゥ シャン、レー・ティエ・ズン、グエン・チィ・バン・チャン、ヴィ・ヴァン・ニャン、グエン・タン・トゥン
第 22 回の目標	
1. 動詞の活用パターンに慣れ、使えるようになる。 2. Show and tell の手法を使い、「分かり易くまとめて話す」「内容について質問する」力をつける。（3 回目） 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. 自己紹介（今回新規の学習者が参加。皆で簡単に自己紹介した後、新参加者に聞きたいことを皆が質問した。） 2. プロソディ「遠い昔から」初回 3. 歌「世界に一つだけの花」： だいぶ歌えるようになってきた。 4. 動詞活用口慣らし（50 音表をタッピングして活用部分を意識させながら学習者が取り上げた動詞で活用練習） 5. 会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 9 名（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、マウン・マウン・エー、ニャン、ズン、テテ・ルイン、リン・アウン、トゥン） Show&Tell 3 回目：本日担当の学習者 2 名が発表した。 発表者 M「ゴッホ」、発表者 B「私の靴」、それぞれ絵や実物を見せながら発表した。 発表を聞いた後、「ゴッホ」は内容が伝わりにくかったので、T が話の内容に関して学習者に質問し、適切な語彙や表現を示して、まとまった話になるようまとめていった。板書修正したものを、適切な語彙・表現に修正し、板書。完成したものを皆で読み、発表者には再度発表してもらった。 ※初級、入門グループ 2 名（トゥ シャン、グエン・チィ・バン・チャン） ①自己紹介復習／先週まとめた内容を話し、関連する Q A を行った。また、T 2 人の自己紹介を聞いて質問した。 ②カレンダー・時間／時を表すことばの基本的なものを確認し、日付や時間を言う練習をした。 ③第 3 回の教材を使って、一日の生活の動詞を確認し、関連の Q A を行った。 5. 文字クラス＝3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習。 ① ニュースを読む。「地震や火事などの災害時、どうやって外国人を避難させるか考える」という NHK のニュース記事を読み、文や漢字の読み練習、内容理解を行った。 ② 「言、話、読、書」の音訓読み、書き練習、熟語、例文を学習し、当該漢字を使って文作りをした。 ③ 拗音を主体に、ひらがな、カタカナ語彙の読み方と書き方の練習をした。	
全体的コメント	
今回、また新しいベトナム出身の学習者が参加したことにより、ミャンマーとベトナムの人数比が近づいてきた。前から参加している学習者にもいい刺激となり新しい教室文化が生まれつつある。今回から新しい詩に挑戦し、日本の歌、動詞の活用プロソディなど合同で行う活動も活気が出て賑やかに行うことができた。自分が紹介したいものを持参し、その説明を行う SHOW&TELL は、3 回目となり全員が 1 度は発表することができ、まとまった話をする練習になった。一人一人が話したことにより、聞きやすい発音や構文力をつける、語彙を増やすなど今後の課題も見えてきた。	

第23回 実施日：2016年10月27日（木） 18:30 ～ 20:30	
講 師	初級：大上幸二（メイン）・小形真佐子（補助）入門：井上紀代（メイン）・小瀧雅子（補助）
学習者	出席9名：ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、テテ・ルイン、リン・アウン、レー・ティエ・ズン、グエン・チィ・バン・チャン、ヴィ・ヴァン・ニャン、グエン・タン・トゥン
第23回の目標	
1. 日本の年中行事の一つの「酉の市」を題材に、神社への行き方、境内の説明等を通じて語彙力をつける。 2. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. プロソディ「遠い昔から」：2回目。明瞭に、スムーズに発話できた。 2. 歌「切手のないおくりもの」：初回。歌詞を説明、動詞語彙等を理解したあと、全員で合唱した。 3. 次回の神社見学の要領（集合日時、場所等）を説明した。 4. 会話クラス＝2グループに分かれて学習 ※初中級グループ8名（ボクサン、リンリン、タンタン・メイ、ニャン、ズン、テテ・ルイン、リン・アウン、トゥン）；戸外学習を行う神社の「酉の市」の概要を教材として作成、配布。【熊手】を人々が購入し、幸運、商売繁盛を祈るとともに季節の行事を楽しむ様子を事前に理解させ、学習した。 ※入門グループ1名（グエン・チィ・バン・チャン） ① 次回の戸外学習「酉の市」について、配布教材を読んで語彙・表現を学習した。 ② 第4回の教材を使って、先週学習した一日の生活の動詞を復習し、関連のQAを行った。まとめとしてプリントの質問に答える形で文章化して記入した。 5. 文字クラス＝3グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の3クラスに分かれて学習。 ① ニュースを読む。 【アメリカの旅行雑誌の＜人気が高い都市＞1番は東京】というNHKニュースを教材とし、高層ビル、充実したレストランが多くあり、自然も楽しめる東京をはじめ、古い歴史的建造物の残る京都など、新旧混在する日本が今アメリカから注目されているという記事を読み、文や漢字の読み練習、内容理解確認のためのクイズに取り組んだ。 ② 「語、問、聞、買」の音訓読み、書き練習、熟語、例文を学習し、当該漢字を使って文作りをした。 ③ カタカナ語彙の読み方と書き方の練習をした。	
全体的コメント	
ベトナム人学習者も初回参加以来5回目となり、授業と仲間に大分慣れてきた様子だが、まだ積極的に手をあげるところまでいっていない。お互いの力量の差もあるが、総じて大人しいので、これから間違いも厭わず、どんどん発話させ、語彙も増やすことにより、日本の生活に早く馴染んでもらいたいところだ。 日本の伝統行事にも写真、おみくじなど回覧し、説明したことで興味を示し、幸福、商売繁盛を願う気持ちも理解したと思う。また、自分たちの幸運、不運などの経験を一人ずつ話すことでアウトプットも練習。 次回の戸外学習を楽しみにしていると思われた。	

第 24 回	実施日： 2016 年 11 月 10 日（木） 18：30 ～ 21：30
講 師	初級：小形真佐子（メイン）・小瀧雅子（補助）入門：松井治子（メイン）・宮下しのぶ（補助）・新野佳子（補助） ボランティア参加：樋口博、大上幸二
学習者	出席 12 名：ビビエン、リンリン、タンタン・メイ、マウン・マウン・エー、テテ・ルイン、リン・アウン、レー・ティエ・ズン、グエン・チィ・バン・チャン、ヴィ・ヴァン・ニャン、グエン・タン・トゥン、リー・テツ、カーギ・リー
第 24 回の目標	
1. 花園神社の「酉の市」の前夜祭を見学し、日本の伝統行事に親しむ。 2. 前年度より参加していた学習者が帰国するため、送別会を行い、新旧のメンバーで交流を楽しむ。	
概要	
18：30 東京メトロ「新宿三丁目駅」E2 出口で集合 18：45 花園神社前は既に人の出が多く、境内内外に多くの露店が出店して大変な賑わいであった。数名待ち合わせに遅れる学習者があったので、一部講師が待ち合わせの場所に残り、集まった学習者と講師で神社の境内に入った。後続グループもまもなく合流したが、狭い通路に人がひしめいているので、全員で移動するのは難しいと判断し、集合時間と集合場所を決めて、小グループになって見学することにした。開運招福・商売繁盛の熊手などの縁起物売る熊手市が境内にずらりと並び、約 900 灯の提灯が立ち並んで、年末の風物詩の味わいがたっぷりである。あちこちから購買客への「手締め」が聞こえてきて、はじめは威勢のいい雰囲気ややたじろく学習者もいたが、様子がわかってきたら、写真を撮ったり、店でのやりとりなどを見て楽しんでいた。可愛い飾りを購入した学習者や、甘酒を買って、皆に提供した学習者もいて、短い時間であったが、それぞれ「酉の市見学」初体験を堪能していた。 19：25 花園神社を出て、送別会の会場へ向かった。（ここで、幼児を預けて参加したカーギー・リー夫妻は帰宅） 19：40～21：30 講師・学習者 17 名で食事をしながら、これまで取り上げてきた歌などを歌いながら、帰国する学習者と歓談し、お互いの健康と活躍を祈った。 21：40 散会	
全体的コメント	
花園神社「酉の市」前夜祭見学は、2 名が待ち合わせ場所に来られず残念ながら不参加となった以外、教室のメンバーの全員が参加し、年末の風物詩の初体験を楽しんだ。見学終了後に行った送別会はシンガポール出身者のためのもので、彼女は今年度は仕事が忙しく、6 月以降欠席となり、今年度後半から参加したベトナム人、中国人学習者とは今日が初対面となった。しかし、参加者の国籍も年齢もレベルも継続期間も多様なメンバーが、見学を楽しんだあと、和やかに食事や歌を楽しむことができたのは、講師全員が学習者とともにこの『生活日本語』勉強会」の場作りに努力してきた成果でもあったと感じられた。歌は好きな日本の曲がある学習者もいて、たとえ歌詞が難しくても、また初めての曲であっても、みな言葉を目で追いながら口ずさんでいた。参加者が相互に交流しながら、歌を通して日本語に親しむよい機会となった。 週 1 回の勉強会であるが、今後もともに学び、また交流を楽しむ場として根付かせていけたらと思う。	

第 25 回 実施日： 2016 年 11 月 17 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：樋口博（メイン）・小瀧雅子（補助） 入門：松井治子（メイン）・宮下しのぶ（補助）
学習者	出席 10 名：ボクサン、タンタン・メイ、レー・ティエ・ズン、ヴィ・ヴァン・ニャン、テテ・ルイン、グエン・タン・トゥン、エン・ビビエン カーギ・リー、グエン・チィ・バン・チャン、トゥ・シャン
第 25 回の目標	
1. 戸外学習「酉の市」見学を通して日本の伝統文化等につき学んだことを振り返る。 2. 最近のニュースを題材として読解力、語彙・表現力を養いつつ、会話力の向上を図る。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 1. ウォーミングアップ会話：先週の「酉の市」見学について： 学習者が集まるまで、先週撮った写真を見ながら会話、見学の振り返りを行った。 2. プロソディ「遠い昔から」：3 回目。全員で元気よく発話、かなりスムーズにできるようになってきた。 3. 歌「切手のないおくりもの」：2 回目。講師のリードに従って全員で合唱。 4. 動詞活用口慣らし：2 グループの動詞で活用練習。全員で言ってみた後、個々に練習。全員とてもよくできた。 5. 会話クラス＝2 グループに分かれて学習。 ※初中級グループ 7 名（ボクサン、タンタン・メイ、レー・ティエ・ズン、ヴィ・ヴァン・ニャン、テテ・ルイン、グエン・タン・トゥン、エン・ビビエン）； ① 戸外学習「酉の市」見学の振り返り 配布教材を読みながら、「酉の市」や「熊手」の意味、買い方等を確認。実際に「熊手」を購入した学習者と買った「熊手」のデザインや、買う際のやりとり、翌年どうするかなど会話をしながら、日本の伝統文化等につき学んだことを振り返った。 ※入門グループ 3 名（カーギ・リー、グエン・チィ・バン・チャン、トゥ・シャン） 「酉の市見学」の写真を見ながら、当日の行動について話したり、感想を述べたりする言い方を QA しながら学習した。まとめとして、動詞と助詞の結びつきを整理し、形容詞の活用を練習した。 6. 文字クラス＝3 グループに分かれて学習 漢字学習初級グループ（①）、漢字入門グループ（②）、かな学習グループ（③）の 3 クラスに分かれて学習。 ① ニュースを読む。 【「子どもができて女性も仕事は続ける」54%が賛成】という NHK ニュースを教材とし、という記事を読み、文や漢字の読み練習、内容理解確認のためのクイズに取り組んだ。その後、同テーマを巡って日本とお国の状況についてどう思うか話し合った。 ② 該当学習者が欠席で実施せず。 ③ カタカナ語彙の読み方と書き方の練習をした。	
全体的コメント	
先週の戸外学習で待合せの場所まで辿り着けなかった学習者 2 名は、降りる駅が違っていただけ。全員参加できなかったのは残念だったが、先週撮った写真も見ながら楽しく振り返り学習を行った。 先週が最後の予定だったシンガポールからの学習者が帰国間近の忙しい中参加、メールアドレスを交換するなど、仲間の学習者とあらためて別れを惜しんでいた。	

第 26 回 実施日：2016 年 11 月 24 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：松井治子（メイン）・小形真佐子（補助） 入門：新野佳子（メイン）・樋口博（補助）
学習者	出席 8 名：ボクサン、タンタン・メイ、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、グエン・タン・トゥン、ヴィ・ヴァン・ニャン、カーギ・リー、
第 26 回の目標	
1. 日本の祝日「勤労感謝の日」について学び、母国の行事について話す。 2. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／ひらがな・カタカナ）	
概要	
合同 - ウォーミングアップ会話：今日の欠席者が欠席の理由として伝えた「急用」の表現を紹介して、関連語彙を学習した。 - ブロンディ「ことばことばことば」「遠い昔から」：完全ではないが、皆随分慣れてきて、スムーズに言えるようになってきている。 - 動詞活用口慣らし：1～3 グループまでの動詞の活用を練習した。 - 歌「切手のないおくりもの」：講師のピアノ伴奏のもと、みな気持ちよく歌った。 ※初中級グループ 7 名（ボクサン、タンタン・メイ、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、グエン・タン・トゥン、ヴィ・ヴァン・ニャン） ①祝日「勤労感謝の日」についてウォーミングアップ会話 出席者はみな昨日の祝日も休みでなく、職場で働いたとのこと。祝日の意味について説明した。 ②読物教材 配付教材を各自黙読したあと、語彙の手当を行い、その後、講師の音頭を聞く。内容理解を確認したあと、学習者が分担して教材を音読した。 ③母国での行事について、同様の習慣があるものは、それについて、ないものは自分が参加した行事について、簡単にまとめて、それを書いたのち、それぞれ発表した。ミャンマーの学習者は新米の収穫を感謝する行事が 11 月にあることを話し、その時の様子を話したが、ベトナムの学習者は年齢も若く、都会育ちであるためか、思いつくものがなかった。講師からの質問に答える形で正月行事を思い出しながら、特別な食べ物について少し話した。 ④文字の学習は読み物の中の語彙の学習で紹介したのみ、漢字学習として取り上げる時間が取れなかった。 ※入門グループ 1 名（カーギ・リー） ①動詞の活用復習 意味と使い方を確認 例文を考える。 ②読解学習：ハチの話 ハチの話前半部分を読み、分からない語彙や表現を確認。間違いやすい助詞の学習。内容理解の後、話のすじを簡単に再現する。ハチの話に出てくる重要な言葉や良く使う表現を使って、簡単な会話練習を行う ③文字学習『かんじだいすき 1』のテキストを使って、漢字と語彙の学習をした。	
全体的コメント	
みぞれ混じりの寒い日となったが、8 名の学習者が参加し、元気に学習した。今日は取り上げたトピックに関連して収穫を祝う母国の行事について話してもらったが、学習者の国籍も増えたので、話題を選んで、お互いの文化を学び合ういい機会にしていきたいと思う。今回から始めの合同以降は文字クラスを別立てにせず、それぞれの学習の中に文字の学習も含めて総合的に扱うことにした。	

第 27 回	実施日： 2016 年 12 月 1 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：宮下しのぶ（メイン）・井上紀代（補助） 入門：小瀧雅子（メイン）・大上幸二（補助）
学習者	出席 11 名：ボクサン、タンタン・メイ、マウンマウンエー、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、グエン・タン・タウン、ヴィ・ヴァン・ニャン、レー・ティエイ・ズン、カーギ・リー、トゥシャン
第 27 回の目標	
1. 短いニュースを読み、それについて話し合い、自分の意見をまとめて書く。 2. 日本の有名な物語を平易な文章で読み、内容を理解する。 3. 文字を学ぶ（読み物や作文を通して学習／ひらがな・カタカナ・漢字）	
概要	
合同 本日は、集まった学習者から順に「文化庁日本語教育調査票」を配布し、回答を書いてもらった。ベトナム人学習者にはベトナム語版、英語がわかる学習者には英語版を渡したが、それ以外は日本語版を使用したため、日本語版使用者には講師がついて適宜補助する必要がある、かなり時間がかかった。アンケートが終わった学習者は、初中級グループについては学習予定の読み教材を配付して、手の空いた講師が語彙の手当てをしながら各自で読んだ。入門グループの漢字学習者には、『かんじだいすき』のコピーを配付して自習してもらった。全員が回答を終えたところで、それぞれのグループに分かれて、グループ別学習を行った。 ※初中級グループ 9 名（ボクサン、タンタン・メイ、マウンマウンエー、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、グエン・タン・タウン、ヴィ・ヴァン・ニャン、レー・ティエイ・ズン） ①既に語彙の手当てを受けながら最後まで読んでいたので、改めて講師が読み聞かせて、内容確認の QA をした。 ②2 つの記事の内容は似通ったケースでありながら、それぞれへの世間の対応が違っていった点について、まず 3 人の学習者の意見を聞いた。 ③上記 3 人の学習者の意見も少しずつ違っており、さらにもう一人の学習者が、各人で物事の捉え方は違うという意見を出したことから、まだ意見を述べていない 6 人も一人ずつ、この記事に関する意見を述べた。それに際しては、「～だと思います、なぜなら～、～さんと同じ意見です」等の表現に整えて話すように指導した。 ④全員が意見を述べ終わったところで、口頭で発表した内容をまとめて書く作業をし、講師が回って適宜アドバイスした。 ※入門グループ 2 名（カーギ・リー、トゥシャン） ①よみもの「ハチ」について学習した。はじめに先週学習した前半部分を復習した。次に後半部分を 1 ページずつ読み、質疑応答をしながら内容の理解を図った。最後まで読み終わってから、ワークシートにある絵を話の順番に並べ、それぞれの内容について自分の言葉で文にした。最後にそれを繋げて、最初から最後まで再話してもらった。またハチの写真をみながら、「どんな犬だと思うか」「この話が好きか」などを話し合った。 ②個別に文字学習を行った。講師は主にトゥシャンにつき、カタカナ文字の学習をした。一文字ずつ復習した後、部屋の中のカタカナ語彙を読んだ。この間、カーギ・リーは、『かんじだいすき』の自習を行ってもらった。漢字としては知っていても、読み方がわからないものもあった。	
全体的コメント	
本日は調査票への回答に時間が取られ、回答終了時刻も時間差があったため、前半は個別対応となった。初中級グループは、読んだものに対して意見を述べるのが主な活動となったが、学習者によって漢字や語彙の手当てが必要な程度にかなりの差があると感じられた。また、意見を述べることも、それを書くとなると難しいと感じる学習者が多いようだった。入門グループは、3 人のうち 1 人が教室に来ることが難しくなり、残る 2 人の能力差が特に読み書きの点で開いているため、今後工夫が必要である。	

第 28 回	実施日： 2016 年 12 月 8 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：井上紀代（メイン）・新野佳子（補助） 入門：宮下しのぶ（メイン）・松井治子（補助）
学習者	出席 9 名：ボクサン、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、グエン・タン・トゥン、 ヴィ・ヴァン・ニャン、レー・テエイ・ズン、カギー・リー、トゥシャン
第 28 回の目標	
1. ・日本の慣用句についての説明文を読み、意味と使い方を知る。 ・自国の慣用句を紹介する文を書いて発表する。 2. 平易な日本語で書かれた物語を読み、内容を理解する。 3. 文字を学ぶ（読み物や作文を通して学習／ひらがな・カタカナ・漢字）	
概要	
合同 1. カレンダー：特別な言い方の日付けを少し復習し、本日の日付、曜日を板書してもらった。 2. 歌「切手のないおくりもの」：アカペラでも上手に歌えるようになっていた。 3. プロソディ「さよならさんかく」初回：イラストを見ながら導入。語彙の説明、発話練習をした。 4. 動詞活用口慣らし：基本的な動詞の絵カードを一人 1 枚ずつ引いて、1～3 グループの動詞の活用練習を行った。 2 グループに分かれて学習 ※初級グループ 7 名（ボクサン、リンリン、テテ・ルイン、リン・アウン、グエン・タン・トゥン、 ヴィ・ヴァン・ニャン、レー・テエイ・ズン） ① 体の一部分を使った慣用句（頭が古い、口が重い、耳が痛い等）を取り上げ、どんな意味か考えてもらって導入。その後教材を配布し、講師の音読を聞いて読みの練習。 ② 配布教材：語彙の手当てをしながらを精読し、それぞれの慣用句の意味と使い方を学習。設問にも答えて、漢字の読みも確認した。 ③ 自国の同様の慣用句について、話し合ってから紹介する文を書き、口頭発表した。みな自国の興味深い慣用句を紹介した。 ※入門グループ 2 名（カギー・リー、トゥシャン） ① 多読ライブラリーレベル 1 『ジョンさん日本へ』のイラストを見せながら、1 ページずつ講師が読み、内容理解の QA や語意の手当てをしながら、聴解による理解を図った。 ② 学習者のレベルに応じて、漢字かな交じり文の本文と、かな文字のみの本文を渡し、段落ごとに一人ずつ音読した。 ③ 設問の答えを各自のペースで書き、講師がチェックして文を整えた。 ④ 先に設問への回答を終えた学習者は、日本に初めて来たときのことについて作文した。 ⑤ 個別に文字学習を行った。カギーには、子ども日本語ライブラリの『かんじだいすき』2 年生読みの一覧を渡し、訓読みを中心に読みの確認をした。トゥシャンには、ひらがなに該当するカタカナを書くワークシートを書いてもらったが、まだ完全には覚えておらず、50 音表を確認しながら書いた。	
全体的コメント	
初級グループは、体の一部分を使った表現を取り上げたが、「頭が痛い、鼻が高い」など文字通りの意味の他に慣用的な意味を知って、面白がっていた。慣用句は、どの国にもある身近なものなので興味深かったようで、みな活発に話していた。ミャンマーとベトナム、日本の 3 か国それぞれの面白い慣用句で話が弾み、交流を楽しむことができた。入門グループの 2 人も、聴解から入って、読み教材の表記を各自のレベルに合わせたことで、一緒に学習することができた。	

第 29 回	実施日： 2016 年 12 月 15 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：大上幸二（メイン）・宮下しのぶ（補助） 入門：井上紀代（メイン）・小形真佐子（補助）
学習者	出席 10 名：ボクサン／タンタン・メイ／レー・ティエ・ズン／ヴィ・ヴァン・ニャン／テテ・ルイン／リン・アウン／カーギ・リー／トゥ・シャン／リンリン、
第 29 回の目標	
1. 季節の行事、しきたりを通して日本の文化を学び、自国のそれとの違いを説明する。 2. 平易な日本語で書かれた物語を読み、内容を理解する。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
○合同 1. カレンダー ；全員で唱和 2. プロソディ「さよなら三角」二回目；ボードのイラストを見ながら練習 3. 歌「切手のないおくりもの」； 大分歌い慣れてきた。 4. 動詞活用の口慣らし；一日の生活、習慣に基づいて動詞をあげさせ、活用を練習。	
○グループに分かれて学習	
※初中級グループ 7 名；（リンリン／ボクサン／タンタン・メイ／テテ・ルイン／リン・アウン／ズン／ニャン）	
1) 12 月師走の行事について ；プリント教材「年末のしきたりと大晦日の慣わし」を配布し、まず黙読し語彙を理解。 ；師走、大晦日、年越し蕎麦といった固有名詞多く、戸惑った様子あるも、日々耳にする言葉なので皆、興味をもって学習。新しい語彙に対する興味から一生懸命知りたいという様子が見られた。 ；除夜の鐘の数の意味、何時頃から、誰が鐘を突くか、といった質問が出た。以前行った増上寺も除夜の鐘があると教え、また実際のお寺（知恩院）での動画を見せて理解させた。	
2) 学習者それぞれから日本の年末行事に対する感想を述べ、自国の年末の行事にはどんなものがあるか発表してもらった。ミャンマー、ヴェトナムいずれも旧正月を祝うので日本の師走はとくに何もお祝い はない、クリスチャンは 11 時ごろから教会でお祈りして歌をうたう、若い人は世界と同じようにパーティをしたりする・・・といった説明があった。最後にそれを文章化を予定したが途中で時間切れとなった。	
※入門グループ 2 名（カギー・リー／トゥシャン）	
1) 先週に引き続き多読ライブラリーレベル 1『ジョンさん日本へ 2』を読んだ。先週同様、学習者のレベルに合わせた本文（漢字交じり文とかな文字だけ）を配布した。 2) まずイラストだけを見せて講師が読み聞かせ、おおまかな内容理解を図り、その後、本文を精読した。 3) 最後に内容についての設問の答えを書いて確認した。 4) 本文の語彙、表現の他、日常生活で役に立つ表現も取り上げて学習した。 5) 文字学習の時間が充分取れず、カギーは『BASIC KANJI』を少し自習したが、トゥシャンは予定していた漢字導入ができなかった。	
全体的コメント	
12 月を師走という理由など、年末の忙しさは学習者も肌で感じているようだが、多忙ななか、皆授業に出てくることが素晴らしい。感想も「いいと思います」ときちんと言えたが、実際に大掃除以外はあまり経験なく、内容的にもそれ以上の意見は出しにくかったかもしれない。自国の行事については積極的に説明し、聞いてもらいたい、理解してもらいたいという姿勢は良かったと思う。 入門グループは、先週と同様に教材の表記を学習者のレベルに合わせて準備し、まず聴解による理解を図ってから、本文を読んだ。「もう一度お願いします」や「～でもいいですか。～ないでください」など日常の便利な表現も紹介した。	

第 30 回	実施日： 2016 年 12 月 22 日 (木) 18:30 ~ 20:30
講 師	初級：・新野佳子 (メイン)・松井治子 (補助) 入門：大上幸二 (メイン)・井上紀代 (補助)
学習者	出席 7 名：ボクサン／グエン・タン・トゥン／ヴィ・ヴァン・ニャン／テテ・ルイン／リン・アウン／カーギ・リー／リンリン
第 30 回の目標	
1. 季節の行事、習慣を学ぶことを通して日本の文化を学び、自国のそれとの違いを説明する。 2. 平易な日本語で書かれた物語を読み、内容を理解する。 3. 文字を学ぶ (読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ)	
概要	
○合同 1. 日付 年末年始のスケジュールダー確認 2. 歌「みんながみんな英雄」：1 回目 初回なので歌詞を読み合わせながら読みの練習、意味内容を確認、補足説明後、2 回歌う。 3. プロソディ「さよなら三角」3 回目：ボードのイラストを見ながら練習。学習者だけでできるようになってきた。 4. 新年の行事・習慣について (初詣、お年玉、お節料理などの紹介) 5. 年末・年始の挨拶：「よいお年を」「明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく (お願いします)」などの定型挨拶を練習し、授業終了時に (今回が今年最後の授業より)、皆でこの挨拶を交わした。	
○グループに分かれて学習 ※初中級グループ 6 名；(リンリン／ボクサン／テテ・ルイン／リン・アウン／トゥン／ニャン) 1) ニュース「今年の漢字」NHK ON LINE ニュースから ・今年のイベント・出来事について、どんなことがあったか、それぞれから出してもらう。 (世の中で起きた出来事でも個人的なイベントでもよい) ・今年の大きなイベントであるオリンピックについて、いつどこであったかなど思い出してもらう。 ・「今年を表す漢字」(NHK WEB EASY) のニュースを配布し、一緒に読み合わせる。 ・内容確認・説明・内容についての QA など ・読めなかった漢字に印をつける。ニューススクリプトに出ていた大事な漢字を WB に書き、読み練習 ・WS の質問に答える。答えを WS に書き込む ・自分の今年を表す漢字を WS に書き、発表する。何故それを選んだかも合わせて話す。 ・同じ内容の NHK ON LINE ニュースにチャレンジ (漢字の読み練習、内容について QA、質問の答えを WS に記入) ※入門グループ 1 名 (カギー・リー) 「木村家のお正月」を教材として日本の年末年始の行事を学習した。 日頃使用しない語彙が多くあったが、日々の生活のなかで出くわすことから興味を示していた。文中の漢字は特殊な語彙を除いて問題なく読め、音訓の読み方も意識していた。助詞が時折抜けるので注意、また教師に質問する際に丁寧に且つ完成した文で発話するよう指導したが、言えば理解するので逐次、訂正し、改善することが必要と思われる。 また、教材のなかの動詞の活用を確認したが、ゆっくりと思い出しながらも間違えず言えたのは大分慣れてきたということであり、学習者本人も弾みがついてきていると感じた。	
全体的コメント	
体調を崩したり、クリスマス前の忙しい時期ということもありいつもより参加人数は少なかったが、皆熱心に学習した。ニュースで「今年を表す漢字」を学習した後、夫々が自分の一年を振り返り、自分にとっての「今年の漢字」を書いた。まだそれ程漢字を学習していないので、独力では書けずに、サポートが必要かと思ったが、「空」「愛」「冬」「日本」「勉強」「心」など思い思いの漢字を書き、理由とともに発表できた。文化紹介を兼ねて日本の歌を取り上げており、今回新しい曲を導入したが、歌詞の理解度も上がり、成長が感じられた。	

第 31 回 実施日：2017 年 1 月 5 日（木） 18:30 ～ 20:30	
講 師	初級：・大上幸二（メイン）・宮下しのぶ（補助）／入門：・小形真佐子（メイン）小瀧雅子（補助）
学習者	出席 6 名：ボクサン／リンリン／タンタンメイ／レー・ティエ・ズン／カーギ・リー／ジョウン（新）
第 31 回の目標	
1. 季節の行事、習慣を学ぶことを通して日本の文化を学び、自国のそれとの違いを説明する。 2. 外国人が自国に紹介したい日本の事物、日本人の特徴、様子等について活発に意見交換する。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）	
概要	
○合同 1. 相互に年始の挨拶を交わした。 2. 歌「みんながみんな英雄」：2 回目 最初、録音とともに歌ったが、早く高い音程のため、2 回目は無伴奏で合唱。声もよく出ていた。 3. 2017 年最初のクラスなので【一年の計は元旦にあり】を紹介、学習者それぞれの計を発表した後、絵馬を模した紙に書いた。日本語が上手になりたい、通訳になりたい、規則正しい生活をしたい、体重を維持したい・・・等々、学習者の思いが表れていた。 ○会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 5 名；（タンタンメイ／リンリン／ボクサン／レー・ティエ・ズン／ジョウン） ；学習者が日本に住んで感じた＜日本、日本人の凄いところ＞を挙げさせ、その理由を一人ずつ発表。 その後、日本駐在のジャーナリストが選んだ【日本の凄いところ—50】から 25 個を抽出し、語彙説明、文法誤用を訂正しながら、比較、検討した。 ；選ばれた項目に＜俳句＞があり、さわりを紹介。現在の学習者レベルでは難しいが、興味は持った模様。 ；全員、日々の生活の中でよく観察しており、電車が混んでいても静かにしている、店でのスタッフの対応が気持ちが良い、町が清潔で美しい、治安が良い、自販機が便利・・・といった意見が次々にでてきた。 ※入門グループ 1 名（カギー・リー） 『浦島太郎』（多読ライブラリーレベル 1）前半部分を読む。 1) 原文通りの本文でプリント教材（基本漢字はルビなし）を配布 2) 始めは本のイラストを見せながら見開きページごとに T が読み聞かせ 3) QA により内容理解を確認。本のイラストで語彙を増やす 文法的なことは身近な文で取り上げて練習 4) ルビなしのプリントを音読 5) プリントの内容に関する質問を読んで答え、記入 6) 続きの話を想像して話してから記述した。 ○文字クラス＝2 グループに分かれて学習 *初中級グループ 5 名 ；年初の行事である【空手の寒中・稽古始め】のニュースを取り上げて学習。 *入門グループ 1 名（カギー・リー） ・テキスト本文の漢字を使って、読み方の確認をした。このレベルの漢字はほぼ読めて理解した。	
全体的コメント	
帰省したり、静養中の者もいるなか、正月休みの続いている者もいるようで、6 名と少ない出席だったが、本日新しく加わった学習者もあり、活発な意見交換となった。日ごろ口数の少ない者も日本の生活のなかで感じているテーマということもあり、また教師に当てられる回数も多く、意図した沢山の発話練習ができたかと思う。学習者の懸命にノートをとる様子を見て、改めて日本語習得に向ける彼らの情熱を強く感じた。 ゼロレベルで始まった入門者も日本語学習に慣れ、成長が感じられる。読み書きはもとより、分からないときや要求があるときの表現も意識できるようになってきた。新規の学習者も和やかにクラスに溶け込んでいた。	

第 32 回	実施日： 2017 年 1 月 12 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：小形真佐子（メイン）・大上幸二（補助）／入門：樋口博（メイン）・新野佳子（補助）
学習者	出席 7 名：ボクサン／リンリン／レー・ティエ・ズン／カーギ・リー／テー・テ・ルイン／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン（初参加）
第 32 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれ、日本語の語彙、構造を知る。 2. 日本の昔話を学びながら日本の文化を学び、自国のそれを説明する。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）。	
概要	
○合同 1. 新年初めて会う人たちと改めて新年のあいさつ。 新しい学習者の自己紹介と、ほかの人からの質問を通して互いに知り合う。 2. プロソディー「さよならさんかく」4 回目 みんなで一緒に、また、二手に分かれて掛け合いながら行う。 中に出てきた言葉から、動詞（動作の言葉）を挙げてもらって活用練習。 3. 歌「みんながみんな英雄」：3 回目 有名な曲に乗った CM ソングで歌詞を見ながら元気に歌う。 4. 「浦島太郎」について前回前半ストーリーを学習した入門学習者に内容を紹介してもらう。 ○会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 6 名；（ボクサン／リンリン／レー・ティエ・ズン／テー・テ・ルイン／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン） ＊昔話のあらすじを読む 1) CM で扱われている昔話の主人公（浦島太郎、桃太郎、金太郎、乙姫、かぐや姫＋鬼）について、どんな人物かを想像して、クイズを試みる。 2) 4 つの物語のあらすじを読み、だいたいの内容を理解する。 3) あらすじを音読し、絵本を見ながらストーリーを確認。 4) 内容に関する質問に答えて記述する。 5) 自国の昔話を話してみる。 ※入門グループ 1 名（カギー・リー） 『浦島太郎』（多読ライブラリーレベル 1）後半部分を読む。 1) 初めに、前半のストーリーあらすじを言う（全体で） 2) その後どうなると思うか、先週のプリントの記述を基に会話 3) 後半部分に入り、本のイラストを見せながら見開きページごとに T が続きのストーリーを話す QA により内容理解の確認、本のイラスト等を示して語彙確認 4) プリントを配布して、音読 学習者から質問が出た文法、表現等を取り上げて身近な文で練習 5) プリントの内容に関する質問を読んで答え、記入 6) その後主人公がどうなったか想像して話してから記述 ○文字クラス＝2 グループに分かれて学習 ＊初中級グループ 6 名 ・教材の本文を使って、漢字の読み方を確認。分からない語彙は各自辞書で調べる、または教師に聞いて理解させる。 ＊入門グループ 1 名（カギー・リー） ・テキスト本文の漢字を使って読み方の確認、読めなかった漢字を使った関連語彙など学習 ・漢字テキストの第 1 課から見せて、分からなかった漢字の読み方、語彙の学習	
全体的コメント	
新年を家族などで過ごしてまだ余韻も残っている学習者もいた。新年の挨拶は 15 日まではよいことを伝えた。CM で馴染みも増えた昔話の登場人物を利用して、日本人は老若男女誰でも知っている物語を学習した。昔話はファンタジーでもあり、初めてでもあらすじを捉えて楽しむことができたようだった。自国の昔話をすぐに言葉にして話してくれた学習者もいて、世界共通の話があることに感心した。ベトナムの人、ミャンマーの人相互の関わり方も自然となって、互に関心を持って話を聞きあうことがよくできている。現在入門クラスで分かれている学習者の知識欲も高く、合同での参加にも積極的にかかわれるようになり、全体としてのまとまりを感じた。	

第 33 回	実施日： 2017 年 1 月 19 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：松井治子（メイン）・新野佳子（補助）／入門：井上紀代（メイン）・小瀧雅子（補助）
学習者	出席 8 名：ボクサン／リンリン／レー・ティエ・ズン／カギ・リー／トゥ シャン／テー・テ・ルイン ／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン
第 33 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれ、日本語の語彙、構造を知る。 2. 最近のニュースを題材として読解力、語彙・表現力を養いつつ、会話力の向上を図る。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）。	
概要	
○合同 1. 挨拶 前回から参加した参加者と簡単な挨拶。 2. プロソディー「さよならさんかく」イラストだけを見て、全員で唱和したあと、クラスのオリジナル作品を作った。 3. 歌「みんながみんな英雄」：3 回目 有名な曲に乗った CM ソングで歌詞を見ながら元気に歌う。 4. 動詞活用口慣らし：練習している今の歌にある動詞を拾って、意味を確認しながら、活用練習をした。 ○会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 6 名；（ボクサン／リンリン／レー・ティエ・ズン／テー・テ・ルイン／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン） ＊ニュース「長野県スキー場で遭難した外国人家族 4 人、無事救助」 1) まず配付したニュースを各自黙読 2) 読んで分かったことを言ってみる 3) 講師が読むのを聞いた後で、分からない言葉を説明する 4) 内容を理解したあとで、読み練習 5) ニュースを読んだ感想と自分だったらどうするかを考えて書く 6) 各自まとめたものを発表する ※入門グループ 1 名（カギー・リー、トゥ シャン） 『ジョンさん バスの中で』（多読ライブラリーレベル 1）を読む。 1) まずイラストだけ見せながら講師が読み聞かせておおまかな内容理解を図る 2) 内容についての QA により内容理解の確認とわからなかった語彙確認 3) プリント（学習者のレベルに合わせて漢字交じり文とかな文字だけの本文）を配付して、段落ごとに音読 4) 本文の語彙、表現の他、動詞を取り上げて活用練習、動詞のグループ分けを確認 5) 最後に内容に関する質問を読んで答え、記入 ○文字クラス＝2 グループに分かれて学習 ＊初中級グループ 6 名 ・教材の本文を使って、漢字の読み方を確認。分からない語彙は各自辞書で調べる、または教師に聞いて理解させる。 ＊入門グループ 1 名（カギー・リー／トゥ シャン） ・時間が充分に取れず、カギーは『BASIC KANJI』を少し自習、トゥ シャンは簡単に漢字を導入した。	
全体的コメント	
先週初参加の学習者もクラスに溶け込んで楽しく学習していた。ベトナムの学習者は皆、スマホの辞書機能を使って、分からない言葉を調べる習慣がついている。自分の言いたいことを辞書で調べ、それを自然な日本語でどう言い換えたらよいかを講師が助言するという新しいスタイルも出てきた。入門グループは、二人のうち一人が休みがちでレベル差が開いてきたため、今後進め方と教材選びも見直す必要が出てきたようだ。	

第 34 回 実施日： 2017 年 1 月 26 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：小瀧雅子（メイン）・大上幸二（補助）／入門：松井治子（メイン）・新野佳子（補助）
学習者	出席 6 名：ボクサン／リンリン／カギ・リー／トゥ シャン／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン
第 34 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれば、日本語の語彙、構造を知る。 2. 日本のことわざを題材として読解力、語彙・表現力を養いつつ、会話力の向上を図る。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）。	
概要	
○合同 1. 歌「みんながみんな英雄」全員が集まるのを待ちながら数回歌う。 2. 雑談 一日の睡眠時間、仕事などを話題に自由に話す。 3. プロソディー「さよならさんかく」イラストだけを見て、全員で唱和したあと、クラスの新しいオリジナル作品を作った。 「さよならさんかく またきてしかく しかくはドア ドアはあける、あけるは寒い、寒いマフラー、マフラーは首、首にネックレス、ネックレスは高い、高いはごんぱち、ごんぱちはきれい、きれいはさくら、さくらは 3 月、3 月は卒業、卒業はさよなら」 ○会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 4 名（ボクサン／リンリン／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン） ＊日本のことわざについての一文 1) ことわざ、慣用句について簡単に説明 2) 配付した文章を各自黙読 3) 読んでわかったことを各自に言ってもらう 4) 段落ごとに講師が読む。 5) わからない言葉を解説。例を出し合ったり、国で似たことわざがあれば紹介。 6) ひとりずつ段落ごとに読み練習。 7) クイズに回答する。 本日は時間がなくなったため、次回、自分の身近な例でことわざが使えることがあれば紹介してもらう。 ※入門グループ 1 名（カギー・リー、トゥ シャン） 『今 何時ですか（ジョンさんシリーズ）』（多読ライブラリーレベル 1）を読み、内容について QA で理解を確認した後、自分たちの経験を話した。 1) テキストの文字部分を消し、イラストを見せながら、講師が一度読み聞かせる。 2) 内容について口頭で QA 3) テキストを漢字版、かな版にしたシートを配付。各自読んで内容の確認 4) 内容に関する質問の答えを記述する 5) テキストの内容を発展させて、実際の話題で会話につなげた。 ○文字クラス＝2 グループに分かれて学習 ＊初中級グループ 4 名（ボクサン／リンリン／ドン・ティ・グォック・チャウ／パム・ティ・ビック・ロアン） ・教材の本文を使って、漢字の読み方を確認。分からない語彙は各自辞書で調べる、または教師に聞いて理解させる。 ＊入門グループ 1 名（カギー・リー／トゥ シャン） ・漢字導入（象形文字の紹介）一～四、月、日の文字を学習し、それを使った月日、曜日の書き練習 ・読み教材、漢字テキスト（第 5 課）を使用して漢字を学習した。	
全体的コメント	
祖国の旧正月や病気などで休みの人がやや多かったが、出席者は皆、楽しく授業に取り組んだ。オリジナルのプロソディー作りもかなり慣れてきて、冬から春への季節をうまく織り込んだ作品が生まれた。初中級のグループは少し長い文章も、講師やスマホの辞書の助けを借り、最後まで読めるようになってきた。本日のテーマ「ことわざ」はどここの国にもあるものなので興味を持って取り組んでいたが、自国のことわざを説明しようとするとまだ語彙が足りず、難しそうだった。	

第 35 回 実施日： 2017 年 2 月 2 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：新野佳子（メイン）・樋口博（補助）／入門：小形真佐子（メイン）・井上紀代（補助）
学習者	出席 6 名：ボクサン／リンリン／カギ・リー／トゥ シャン／ドン・ティ・グォック・チャウ／テー・ルーイン／
第 35 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれば、日本語の語彙、構造を知る。 2. 日本の伝統的な文化・習慣を題材としたニュースを取り上げ、読解力、語彙（漢字語彙含む）・表現力を養いつつ、会話力の向上を図る。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）。	
概要	
○合同 1. 雑談 皆が揃う間、近況などを話題に自由に話す。 2. 歌「海の声」全員で、歌詞の意味も考えながら数回歌う。 プロソディー「大すぎ」 詩のリズムに親しみながら詩を味わう。内容理解のために感情や心の動きを表すオノマトペ、「～たら」などの表現学習も行う。 3. 日本の文化・行事紹介：明日の節分（3 日）、立春（4 日）を紹介 ○会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 4 名（ボクサン／リンリン／ドン・ティ・グォック・チャウ／テー・ルーイン） ＊節分と立春 1) 節分と立春の概要を記した文を読む。豆まきの行事、「鬼は外、福は内」の意味などを説明後、内容理解の QA を行い、自分の国の春の行事について話す。 2) 配付したニュース「大阪・通天閣で豆まき」を各自黙読 3) 読んでわかったこと、わからなかったことなどについて話しあう。 4) 段落ごとに講師が読み、ついで一緒に読む。 5) わからない言葉を解説。内容理解の QA, 6) ひとりずつ段落ごとに読み練習。 7) 穴埋め作文クイズに回答することによって「だれが、いつ、どこで、何をしたか」について記述する。 8) 内容に関しての質問に答え、記入する。 9) 余力のある学習者は 2 つ目のニュース（豆まきに変わり、恵方巻定着）のニュースを読む。 ※入門グループ 1 名（カギー・リー、トゥ シャン） ・節分の行事を話し、関連した語彙を紹介した。いろいろな物の数え方を 3 つ復習した。 『バス（多読ライブラリーレベル 1）』を読み、内容について QA で理解を確認、感想を述べた。 1) テキストのイラストを見せながら、講師が一度読み聞かせる。 2) 内容について口頭で QA 助詞など文法を確認。 3) テキストを漢字版、かな版にしたシートを配付。各自読んで内容の確認、音読しあった。 4) 内容に関する質問の答えを記述し、口頭でも確認した。 ○文字クラス＝2 グループに分かれて学習 ＊初中級グループ 4 名（ボクサン／リンリン／ドン・ティ・グォック・チャウ／バム・ティ・ビック・ロアン） ・教材の本文を使って、漢字の読み方を確認。分からない語彙は各自辞書で調べる、または教師に聞いて理解させる。 ＊入門グループ 2 名（カギー・リー／トゥ シャン） ・前回導入した漢字、一～四、月、日を復習し、新規に、木、山、川を導入した。 ・漢字テキスト（第 6 課）をおもに読みに関して学習を進めた。	
全体的コメント	
2 月に入り新しい歌と詩にチャレンジした。5 月からいろいろな歌を歌ってきた成果か、初見でも歌詞を見ながらなんとか歌えるようになってきており、各自のレベルに応じ日本語を読むスピードが上がっている。文字クラスの初中級では基本的な漢字の読解力が確実についてきたのを感じた。入門の非漢字圏の学習者も仮名の学習が終わり漢字学習に入った。今回、ニュース記事から要点を書くタスクを行った。白紙から書くのではなく、一つ一つ質問に答える形で書くので書きやすかった面もあると思うが、全員よくまとめて書くことができた。	

第 36 回 実施日： 2017 年 2 月 9 日（木） 18：30 ～ 20：30	
講 師	初級：樋口博（メイン）・井上紀代（補助）／入門：小瀧雅子（メイン）・小形真佐子（補助）
学習者	出席 5 名：ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／パム・タイ・ビッチ・ロアン／カギ・リー
第 36 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれば、日本語の語彙、構造を知る。 2. 日本の伝統的な文化・習慣を題材としたニュースを取り上げ、読解力、語彙（漢字語彙含む）・表現力を養いつつ、会話力の向上を図る。 3. 文字を学ぶ（読み物を通して学習／基本漢字／ひらがな・カタカナ）。	
概要	
○合同 1. 雑談 皆が揃う間、近況などを話題に自由に話す。 2. 歌「海の声」U-Tube の音楽に合わせて、歌詞カードを見ながら数回歌う。 3. プロソディー「大すき」 詩の内容に合わせて動作をしながら練習。 4. 来週の教室で行うコミュニケーション活動についての説明。 ○会話クラス＝2 グループに分かれて学習 ※初中級グループ 4 名（ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／パム・タイ・ビッチ・ロアン／） ＊自国のことわざ 先々週話題に出た「ことわざ」につき、自国にどんなものがあるか各自に出してもらった。 ＊ニュース：NHK NEWS WEB（2 月 5 日）【ミャンマーで両国の文化交流イベントを開催】 (1) 配布したニュース記事の読解 キーワード等読めない漢字、分からないことばを T、AT に確認しつつ各自読み進めた (2) 読解の QA をしつつ、内容確認 (3) 記事、キーワードの漢字のことばの読みと意味を確認 (4) 下記の形で表現練習、各自口頭で作文、その後プリントに記入 ～になりたい、をしていきたい ※入門グループ 1 名（カギ・リー） ・来週行うコミュニケーション活動について、実際に講師が例を示して再度説明した。 ・読み教材の導入として乗り物の話、さらに日本で旅行した場所や行きたい場所について話してもらった。 ・『バス（多読ライブラリーレベル 1）』後半を読み、内容について QA で理解を確認、感想を述べた。 1) テキストのイラストを見せながら、講師が一度読み聞かせる。 2) 内容について口頭で QA 助詞など文法を確認。 3) テキストシートを配付。読んでもらい、内容の確認、音読。 4) 内容に関する質問の答えと感想を口頭で述べ、ワークシートに記述した。 ○文字クラス＝2 グループに分かれて学習 ＊初中級グループ 4 名（ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／パム・タイ・ビッチ・ロアン／） ・教材の本文を使って、漢字の読み方と意味、使い方を確認。 ＊入門グループ 1 名（カギ・リー） ・新出漢字の読みと熟語を学び、ノートに書いた。	
全体的コメント	
体調が優れない学習者、手術をした学習者等がいて来られる人が少なくなりましたが、寒い中元気に参加した学習者は楽しく学習を進めた。新しく入ったプロソディは本日 2 回目だったが、詩に合わせてワクワク、ドキドキなど動作を交えながら楽しく練習することができた。来週は支援者研修に参加している方たちを迎えてコミュニケーション練習を実施する予定。	

第37回 実施日：2017年2月16日(木) 18:30 ~ 20:30	
講 師	初級：小形真佐子(メイン)・小瀧雅子(補助) / 入門：宮下しのぶ(メイン)・大上幸二(補助)
学習者	出席5名：ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／リンリン／カギ・リー
第37回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれ、日本語の語彙、構造を知る。 2. 日本の伝統的な文化・習慣、最新的话题を題材としたニュースを取り上げ、読解力、語彙(漢字語彙含む)・表現力を養いつつ、会話力の向上を図る。 3. 文字を学ぶ(読み物を通して学習/基本漢字/ひらがな・カタカナ)。	
概要	
○合同 1. 挨拶、日付の確認。2月の季節の話題で雑談した。 2. 発表会の出し物の一つとする歌を決める。今まで歌った中から「世界にひとつだけの花」をピアノの伴奏で試みた。 3. 本日、後半に実施する支援者研修受講者との合同活動について話した。	
○会話クラス＝2グループに分かれて学習 ※初中級グループ4名(ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／リンリン) *「小学校の英語の授業は3年生から始める」NHK News web と同 easy (2月15日) (1) 自国で外国語は何歳から習ったかを話した (2) 配布したニュース記事の読解 キーワードや読めない漢字、分からないことばをT、ATに確認しつつ各自読み進めた。 (3) 簡単なQAの後、正誤問題を自分で試みる。早くできた人はチャレンジの読み物を読んだ。 記事、キーワードの漢字のことばの読みと意味を確認 (4) 自分の意見を話す。～と思います、～ですから、の形で書いて発表した。	
※入門グループ1名(カギー・リー) *人を表す形容詞・表現 自己紹介、家族紹介の際のプラスα表現を学ぶ (1) 容姿を表すことばを学習しながら、自分や家族についても描写した。 (2) 性格を表すことばを学習しながら、自分の性格について話した。 その際に、「どうして、そう思いますか」の問いかけをし、「～だから、私は～だと思います」のような答え方を練習した。	
○支援者研修受講生との対話活動 ・支援者と一対1或いは一対2に分かれて、各自好きなもの、または家族などの話題で対話した。 ・各自用意してきた写真やイラストを見せたり、図を書いたりして、話したいことを伝える工夫をした。 ・発表会に向けて、スピーチ原稿のもとになるように、話題を広げ、補助資料をまとめた。 *次回までにスピーチの内容を整理してくる。	
全体的コメント	
2月も半ばとなったが、帰国していたり、家族の事情があるなど、様々な理由で教室に来られない学習者も多い状況だ。そのような中、出席者は、北海道旅行からのお土産をもって来るなど、元気に近況報告をしてくれた。バレンタインデーの過ごし方など自分の国との違いを話したり、本日の読解のテーマである英語教育について、自分の国の事情を振り返って意見を言うなど、自然な発話も楽しんでいる。本日から始まった支援者研修受講者との対話練習では、お互いにやり取りしながら話を進めていた。読解教材を使っでの学習で漢字力、語彙力もついてきていると感じる。これから少しずつ欠席の学習者が戻ってきてくれるとよいと思う。	

第 38 回	実施日： 2017 年 2 月 23 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：大上幸二（メイン）・松井治子（補助）／入門：樋口博（メイン）・宮下しのぶ（補助）
学習者	出席 5 名：ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／リンリン／カギ・リー
第 38 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれ、日本語の語彙、構造を知る。 2. 支援者との対話、手助けを得て、自分の発表したい内容をまとめる。その中で語彙力（漢字語彙含む）・表現力、会話力の向上を図る。	
概要	
○合同 - 挨拶、日付の確認。本日の天気の様子、また各学習者それぞれの本日の出来事を報告。 - 発表会の出し物の一つとする歌を決める。今まで歌った中から「世界にひとつだけの花」をピアノの伴奏で練習。「さよなら三角」を雛形と自己流で合唱。 - 発表会で行う「自分の好きなものごと」について支援者研修受講者の協力も得て準備した。 ○会話クラス＝2 グループ・・上記により、本日は会話クラスには分かれず、発表会資料作成に集中した。 ○支援者研修受講生との対話活動 - 支援者と一対 1 或いは一対 2 に分かれて、各自好きなもの、または家族などの話題で対話した。 - 各自用意してきた写真やイラストを見せたり、図を書いたりして、話したいことを伝える工夫をした。 - 発表会に向けて、スピーチ原稿のもとになるように、話題を広げ、補助資料をまとめた。 * 次回は、スピーチドラフトを完成し、口頭発表のリハーサルを行うことを確認。	
全体的コメント	
年度末を控えていることもあり、学習者も多忙なようで、出席者は先週同様、往時の半分となった。しかしながら、学習者は熱心に楽しく学習しているのが頼もしい。ある学習者は途中で勤務先に呼び戻されるといったハプニングもあった。発表会に行う内容も徐々に形を成してきており、持参した資料も興味をそそるものが多く、楽しみである。支援者研修受講者も多少の緊張のなかでも実際の学習者とのやり取りが楽しいようで、現場での研修の意義を再認識した。	

第 39 回	実施日： 2017 年 3 月 2 日（木） 18：30 ～ 20：30
講 師	初級：井上紀代（メイン）・小形真佐子（補助）／入門：新野佳子（メイン）・樋口博（補助）
学習者	出席 4 名：ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／リンリン／レー・ティエ・ズン
第 39 回の目標	
1. プロソディー、歌を通して日本語のリズムになれ、日本語の語彙、構造を知る。 2. 支援者との対話、手助けを得て、自分の発表したい内容をまとめて発表の練習をする。その中で語彙力（漢字語彙含む）・表現力、会話力の向上を図る。	
○合同 1. 挨拶、日付の確認。ウオーミングアップ。 2. アンケート用紙に記入。 3. ひな祭りについて（プリント配付） 4. 歌：発表会で歌う「世界にひとつだけの花」をピアノの伴奏で練習。 途中から支援者研修受講生も参加し、一緒に歌った。 ○支援者研修受講生との対話活動 ・スピーチ原稿完成 前回に引き続き、学習者と支援者研修受講者が 1 対 2 になり、個別に支援者と話しながらスピーチ内容を文章化した。 ・スピーチ発表 発表の順番を決めて、一人ずつ視覚資料を見せながら予行練習をした。 ・発表フィードバック 支援者に発表の感想などコメントしてもらった。	
全体的コメント	
今週も先週同様、様々な理由で欠席者が多く残念であったが、出席者は皆来週の発表に向け、支援者研修受講者と一緒に準備に励んでいた。できるだけ前回と同じ支援者に担当してもらったので、学習者は話したい内容を相談しながらまとめて原稿を完成し、発表の予行練習をすることができた。回を重ねるごとに支援者とも打ち解けて、どのグループも和気藹々、楽しそうな交流が見られた。来週の発表には都合をつけて見に来てくださる支援者もいるようで、みな楽しみにしていた。	

第40回	実施日：2017年3月9日（木） 18:30 ～ 21:00
講師	初級：宮下しのぶ（メイン）・樋口博（補助） 入門：小瀧雅子（メイン）・松井治子（補助）
参加者	関口明子、戸田佐和、中村桂子、清水勢津子、田村順子、諸橋美樹、壇上智子、後藤周子 高木隆子（港区）、小形真佐子、大上幸二、井上紀代
学習者	出席5名： ボクサン／ドン・ティ・グォック・チャウ／レー・ティエ・ズン／リンリン／カギ・リー
第40回の目標	
大勢の前でわかりやすくスピーチをする	
学習項目	
全て合同で行った（初級グループ4名、入門グループ1名） - 挨拶の後、本日の流れを説明した。 - プログラム順とスピーチタイトルを確認し、始めと終りの挨拶をする学習者を決めた。 - スピーチ原稿が準備できていない入門学習者一名は、講師一名が補助して原稿を仕上げた。 - スピーチ発表準備、練習 スピーチに使用する視聴覚資料の確認をし、希望者は前にでてスピーチ練習をした。 【発表会】 - 始めのことば：学習者が述べた。 - スピーチ発表 学習者5名がそれぞれのテーマで発表した。見学の方にはコメントを書いていた。 - 終わりのことば：学習者が述べた。 - 精勤賞授与 精勤の2名に賞状と賞品が授与された。 - ミニパーティー 学習者、運営委員、見学者、講師で楽しく歓談した。最後に講師のピアノ伴奏で「世界にひとつだけの花」を歌い、記念撮影をした。	
全体的コメント	
本年度最終回で、学習発表会が行われた。発表原稿の作成を手伝った支援者も多数駆けつけ、開始前に最終チェックを行うペアも多かった。発表会では、5人の学習者がスピーチを行ったが、原稿に頼らず、聞く人に語り掛ける話し方で、PPTや写真資料等も豊富であり、興味深い内容に参加者は熱心に聞き入った。質問も多く出たが、内容をよく理解し、適切に答えることができていた。特に、教室開始時にはゼロ初級者であった入門学習者が、他の4人と同様の10分にわたるスピーチをアドリブを交えて行えたことに、1年間の学習の成果を感じることができた。発表後のミニパーティーでは、学習者と参加者が和やかに歓談する姿が見られた。国籍の違う学習者同士のつながりもでき、来年度の再会を約束して、最終回の学習を終了した。	

「生活日本語」勉強会のお知らせ

この講座は、主に難民やその家族の方を対象とした定住者のための勉強会です。
日本の社会で生活していくために必要な日本語と一緒に勉強しませんか。学校などに通って
日本語を勉強するチャンスのない方で、18才以上の方ならだれでも参加できます。

【日時】 2016年5月12日～2017年3月9日、毎週木曜日、18:30～20:30
全40日80時間（8月11日、9月22日、11月3日、12月29日はお休み）
＊できるだけすべての回にご参加ください。

【場所】 光明寺（下記の会場地図参照）
東京都港区虎ノ門3-25-1

【参加費】 無料（会場までの交通費は、ご自身でご負担ください）

【申込み】 下記の申込みフォームにご記入の上、FAX でお申込みください。

FAX:03-3459-9660（2016年5月6日まで、先着20名様まで）

【内容】 生活に必要な日本語（例：交通、買い物、仕事の日本語）
コミュニケーションに必要な日本語（例：身近な人、地域の人と話す）
自己表現のための日本語（例：街へでかけよう、自国紹介）など

【申込みフォーム】

【会場】

名前 _____ 年齢 _____ 才

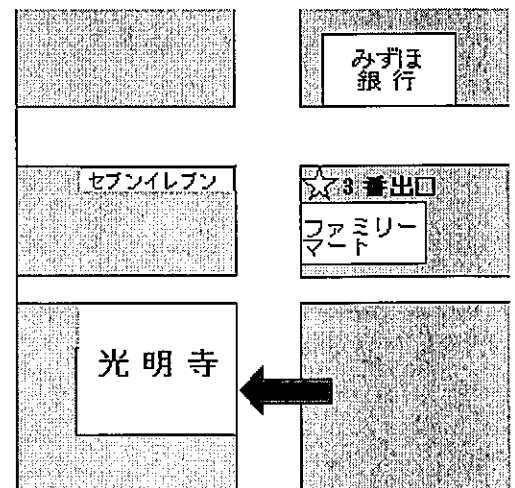
東京メトロ 日比谷線 神谷町駅(3番出口)から1分

国籍 _____ 性別 _____ 男 / 女

住所 _____

電話 _____

メールアドレス _____



Learn "Everyday Japanese"

Free study sessions for residents focusing on refugees and their families

Would you like to get together and study Japanese that you can use in your day-to-day life? Attend our study sessions, which are offered for free! If you are 18 or older and cannot go to school, this is the chance for you to learn.

【Dates】 May 12, 2016 to March 9, 2017 (Thursdays from 18:30 to 20:30) for a total of 80 hours over 40 days (no sessions on Aug.11, Sep. 22, Nov. 3, Dec.29)

*Please try to attend all sessions.

【Location】 Komyo-ji Temple (see the map below)

Toranomon 3-25-1, Minato-ku, Tokyo

【Fees】 FREE! (Students are only responsible for their own transportation costs)

【How to sign up】 Fill in the form below and FAX to :03-3459-9660

(Up to 20 students on a first-come basis. Sign-up deadline is May6.)

【What You Will Learn】 Everyday Japanese that you can use immediately in your day-to-day life (e.g. transportation, shopping, work, etc.) for communicating with people around you. You will also learn how to talk about yourself (where you are from, what you like to do, etc.) in Japanese.

【Application form】

Name _____ Age _____

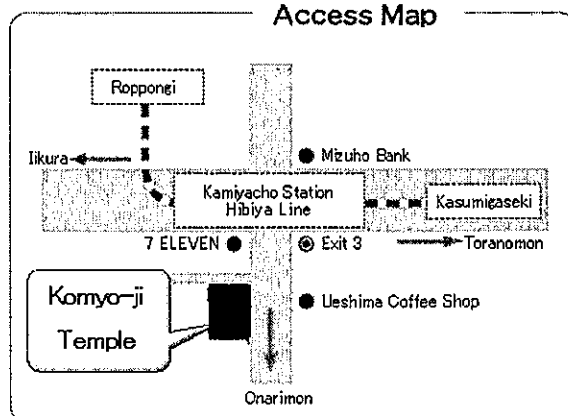
Nationality _____ Sex Male/Female

Address _____

Phone _____

email _____

Access Map



1 minute walk from the Kamiya-cho Station (Exit 3)
on the Tokyo Metro Hibiya Line

「နေထိုင်မှုအတွက်လိုအပ်သောဂျပန်စာ」 သင်တန်းအကြောင်းကြားစာ

ဂျပန်နိုင်ငံ၏လူ့ဘောင်အဖွဲ့အစည်းတွင်နေထိုင်ရန်အတွက်လိုအပ်သောဂျပန်ဘာသာစကားကိုအတူတူမသင်ချင်ဘူးလား။ ဂျပန်ဘာသာစကားသင်တန်းကျောင်းတွင်တက်ရောက်သင်ကြားရန်အခွင့်အရေးမရှိသူ၊ အသက် ၁၈ နှစ်နှင့်အထက်မည်သူမဆိုတက်ရောက်နိုင်သည်။

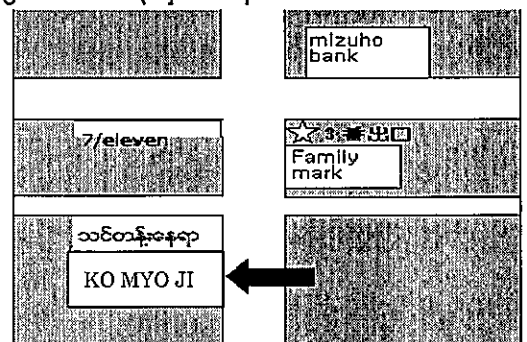
သင်တန်းကာလ ၂၀၁၆ ခုနှစ် ၅ လ ၁၂ ရက် မှ ၂၀၁၇ ခုနှစ် ၃ လ ၉ ရက်
 သင်တန်းချိန် အပတ်စဉ် ကြာသပတေးနေ့ ၁၈ နာရီ ၃၀ မိနစ် မှ ၂၀ နာရီ ၃၀ မိနစ်
 စုစုပေါင်း ၄၀ ရက် နှင့် အချိန်ပေါင်း ၈၀ နာရီ
 (၈ လ ၁၁ ရက် ၊ ၉ လ ၂၂ ရက် ၊ ၁၁ လ ၃ ရက် ၊ ၁၂ လ ၂၉ ရက် ပိတ်ပါမည်)
 တက်နိုင်သလောက်သင်တန်းချိန်အားလုံးတက်ရောက်သင်ကြားရန်
 နေရာ KOUMYOUJI (အောက်တွင်မြေပုံဖော်ပြထားသည်)
 TOKYO MINATOKU TORANOMON 3-25-1
 သင်တန်းကြေး အခမဲ့ (လမ်းစရိတ်တာဝန်မယူပါ)
 လျှောက်ထားရန် အောက်တွင်ပါရှိသောလျှောက်လွှာဖြည့်ပြီးဖက်စစ်ဖြင့်ပို့ ပေးရန်
 ဖက်စ်နံပါတ် ၀၃-၃၄၅၉-၉၆၆၀ (၂၀၁၆ ခုနှစ် ၅ လ ၆ ရက် နောက်ဆုံး၊ ၂၀ ဦးသာလက်ခံမည်)
 အကြောင်းအရာ နေထိုင်ရန်အတွက်လိုအပ်သောဂျပန်စာ
 (ဥပမာ လမ်းပန်းဆက်သွယ်ရေး၊ ဈေးဝယ်၊ လုပ်ငန်းခွင်သုံးဂျပန်စာ)
 လူမှုဆက်ဆံရေးတွင်လိုအပ်သောဂျပန်စကား
 (ဥပမာ အနီးအနားရှိလူ၊ အိမ်နီးနားခြင်းတို့ နှင့်စကားပြောခြင်း)
 မိမိခံစားချက်ကိုထင်မြင်ချက်ပြောဆိုရာတွင်အသုံးရန်လိုအပ်သောဂျပန်စာ

【လျှောက်လွှာပုံစံ】

အမည် _____
 အသက် _____ နှစ်
 နိုင်ငံသား _____
 လိင်အမျိုးအစား အမျိုးသား/အမျိုးသမီး
 နေရပ်လိပ်စာ _____
 ဖုန်းနံပါတ် _____
 မေးလ်လိပ်စာ _____

【နေရာ】

Tokyo Metro Hibiya Line Kamiyacho သူတာ
 ထွက်ပေါက် ၃ မှ ၁ မိနစ်



学習者のみなさまへのアンケート

じ かい せい かつ に ほ ん ご べん ぎやう かい
 次回の「生活日本語」勉強会をよりよいものにするために、アンケートにご協力ください。

い た だ い た かい とう じやう き もく て き い が い つか
 いただいた回答は、上記の目的以外のために使うことはありません。

な ま え
 お名前 _____

おとこ おんな
 男 ・ 女

ね ん れ い さい
 年 齢 _____ 歳

れ ん ら く さ き
 ご連絡先 _____

E メールアドレス / で ん わ
 電話 _____

1. この教室で勉強して、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか。1つ選んでチェック(☑)してください。

☐ じやう ず べん ぎやう かい
 上手になったと思う ☐ ま あ ま あ じやう ず べん ぎやう かい
 まあまあ上手になったと思う ☐ か
 変わらない ☐ じやう ず べん ぎやう かい
 上手になっていないと思う

2. この教室で勉強する前とくらべて、日本での生活ができるようになったと思いますか。1つチェック(☑)してください。

☐ べん ぎやう かい
 できるようになったと思う ☐ す こ べん ぎやう かい
 少しできるようになったと思う ☐ か
 変わらない ☐ べん ぎやう かい
 できるようになっていない

3. この教室の勉強会の内容に満足していますか。1つチェック(☑)してください。

☐ ま ん ぞ く
 満足している ☐ ま あ ま あ ま ん ぞ く
 まあまあ満足している ☐ あ ま り ま ん ぞ く
 あまり満足していない ☐ ま ん ぞ く
 満足していない

4. もっと日本語を勉強したいと思いますか。1つチェック(☑)してください。

☐ おも
 思う ☐ おも
 思わない

5. この教室の勉強会に関してコメントを記入してください。(勉強になったこと、次回勉強したいこと)。

きやうりやく
 ご協力ありがとうございました。

第1回 実施日：2016年12月8日（木） 17:30 ～ 20:30	
講師	カディザ・ベゴム（メイン）・小瀧雅子（補助）
学習者	出席11名：森玲子 諸橋美樹 涌井八重子 西口理沙 壇上智子 清水勢津子 柴山智帆 田村順子 野嶋和生 後藤周子 村上和裕
第1回の目標	
難民当事者の声を聴き、難民の状況や日本語支援の必要性について学ぶ。	
概要	
1. 挨拶 AJALTの難民教育との関りを含め、協会理事長より挨拶の言葉を述べた。 2. 自己紹介 受講者が一人ずつ本講座の受講動機や支援歴などについて話した。 3. 本クラスの趣旨 クラスの趣旨、内容、今後のスケジュールについて補助講師より説明をした。 4. 難民当事者（講師）の話 講師として話してもらったのは、10年前に日本語が全く分からない状態で難民の家族として呼び寄せられ、RHQ支援センター、日本語学校での学習を経てUNCHRの奨学生として大学に進み、現在は子育てをしながら仕事を続けるとともに地域に住む同胞の女性たちのために自助組織を立ち上げようとしている女性。 以下のふたつのテーマについてお話しいただき、受講者との質疑応答を行った。 ①難民として生きる～これまでの人生を振り返る ②日本語のここが難しい～入国当初の日常生活、学生としてのアカデミックな日本語、職場の一員として要求される仕事の日本語、地域住民・母親として必要な日本語等、ライフステージの各場面で必要とされる日本語能力について	
全体的コメント	
当事者の生の声を聴き、そこから受講者に感じ考えてもらうことから本研修をスタートしたいと考え、第1回の今回はロヒンギャ民族の難民女性を講師に迎えた。 受講者の中には、すでに難民申請者や在留特別許可の人たちを教えていたり、難民問題に関心があったりする人も多く、また日本語教育に携わってはいなくとも、外国人の若者の進路支援や障害を持つ子どもたちの指導の経験がある等、メインストリームから外れた人たちの教育や状況に心を砕いてきた人たちもおり、皆熱心に講師の話に聞き入った。講師も情熱をこめて話してくれ、また受講者からも多くの質問がでた。そのため、当初後半人予定していた難民についての背景説明の話などのプログラムは変更し、最後まで講師を囲んでの会とした。話が途切れず予定していた休憩や最後の学習者からのフィードバックができたことは反省点であるが、講師のことばは十分に受講者に伝わったものと思う。	

第2回 実施日：2016年12月15日(木) 17:30 ~ 20:30	
講師	新野佳子
学習者	出席8名：森玲子 諸橋美樹 西口理沙 壇上智子 清水勢津子 田村順子 後藤周子 村山和裕
第2回の目標	
「わかりやすい日本語/やさしい日本語」を知ることにより、外国人に伝わりやすい話し方を学ぶ	
概要	
1. 挨拶・本日の予定・テーマ（わかりやすく話そうー相手に伝わる話し方）説明 2. 「やさしい日本語」の概略・意義・代表的な考え方紹介 「やさしい日本語」が求められた背景や流れ、意義などを共有する。東日本大震災後に被災地の日本語ボランティア教室の幾つかに対して行ったアンケート結果なども交えながら話した。 3. わかりやすい日本語で書いてみよう 弘前大学の佐藤先生の「「やさしい日本語」にするための12の規則を素材に考える。 ・ミニワーク：12の規則を使い、「災害発生時のニュース」を「やさしい日本語」に変えるタスクを行った後、発表しあって夫々の案を検討した。 4. 日本語クラス授業見学 5. 「わかりやすい日本語」で話すタスク2. 3. 4 よく使う言葉、表現、また外国人に意味を聞かれることが多い言葉などを中心に「わかりやすい日本語」で話すタスクを語彙レベル、文レベルで行った。また「わかりやすい日本語」を考える上での非言語コミュニケーションについて考えた。 6. ミニワーク：わかりやすい日本語で自己紹介 各人が外国人という想定で自己紹介を行った。5.のタスクを行う上で非言語コミュニケーションの大切さを話したが、早速実践していた。 7. まとめ：単にわかればいいのか、伝わればいいのかという疑問を投げかけ考えてもらった。	
全体的コメント	
既に日本語支援を経験している受講生と全く日本語支援や日本語教育に携わったことがない受講生が半々くらいの構成だった。「わかりやすい日本語」について具体例、実践例を交えながら話し、ミニワーク・タスクを重ねていくに従い、徐々にポイントを掴み、わかりやすくするツールやグッズを探して動くようになり上手になっていった。難しくなかなかポイントを掴めない受講生もいたが、その意義や大切さは全員が共有できたと思う。日本語教室見学は、最初に全員で行うプロソディー部分を見学した。予想していた会話や文法、文字などの支援とは異なる内容だったため、新鮮な驚きだったようだ。日本語支援に携わった経験のない受講者は支援のイメージを掴む上で、また経験者には自分の教室との比較ができ良い体験学習になったと思う。	

第3回 実施日：2017年1月12日(木) 17:30 ~ 20:30	
講師	宮下しのぶ
学習者	出席10名：森玲子 諸橋美樹 西口理沙 壇上智子 清水勢津子 石川正子 柴山智帆 田村順子 後藤周子 村山和裕
第3回の目標	
普段何気なく使っている日本語の音や文字について見直してみることで、日本語学習者が何に躓くのかを理解する。	
概要	
前半を音、後半を文字にあてて行った。	
1. 日本語の音を見直す ①母音と子音がそれぞれどのような音であることを説明し、母音体操などで実際に声を出してみながら確認した。 ②有声音と無声音については、練習問題を発音してみながら、どの部分が日本語学習者にとって聞き取りづらい音になるのかを確認した。	
2. 日本語のリズムを見直す ①モーラ言語と音節言語で、同じことばの発音がどのように変わるかを実際に声に出して感じながら、日本語らしい発音に近づけるために拍の感覚を身につけることが大切であることを説明した。 ②数字や俳句を声に出して読んでみることで、私たちが心地よく感じる4拍子のリズムに気づいてもらった。日本語のリズムを体得するために詩や歌を取り入れることが有効であることを、実際にいくつかの例を出しながら説明した。 ③音声指導法の一つとしてVT法を紹介し、実際の使い方の一例を見せた。	
3. 日本語の文字を見直す ①かなで表記できる音の種類や書体について説明し、仮名学習に有効な方法について、実際にカードを使って実演した。 ②日本語支援を経験している受講生から、漢字学習を進めるにあたって難しく感じる点を聞きながら、学習者に合わせた漢字指導の進め方について話し合った。	
全体的コメント	
日本語の音やリズムについて、意識しながら発声してみることで、日本語の特徴に気づき、それが、日本語学習者が感じる難しさにもつながることを理解できたようだった。紹介した詩や歌と一緒に読んでみることで、リズムや音の体得に有効であることが実感できたと思う。文字については、実際に支援をしている受講生から、カード教材の使い方等を聞き、同じカードで様々な使い方ができること、知らぬ間に「繰り返す」ことが有効な手段であることを確認した。漢字学習については、支援にあたっての悩みが多いようで、色々な質問が出たが、それに答える形で学習者に合わせた漢字指導について話し合うことができた。	

第4回 実施日：2017年1月19日（木） 17:30 ～ 20:30	
講 師	小形真佐子
学習者	出席9名：森玲子 諸橋美樹 西口理沙 壇上智子 清水勢津子 野嶋和生 柴山智帆 田村順子 村山和裕
第4回の目標	
日本語教育における文法、特に名詞文・形容詞文について、理解を深め、支援の方法を考える。	
概要	
前半は文法を概観しながら支援の仕方を考え、後半は名詞文・形容詞文を取り上げた。 1. 文法の概観と支援の仕方 ①文法には形、意味、使い方があることを理解し、学習者の誤りはどこにあるかを知る手立てとすることを話した。 ②日本語教育における文法を概観し、述部を中心とする文の分類や活用から、学習者にとってどこが難しいかを考え、気づきを大切にする支援の方法を紹介した。 ③名詞文や形容詞文は実際の初級テキストではどのような提出順序で学習し、学習項目としてどのように扱われているのかを一覧からピックアップして確認した。 2. 名詞文 ①名詞の種類を確認し、名詞文でどんなことを伝えることができるかを話し合った。学習者が遭遇する場面例で必要な語彙・表現を考えた。 ②自己紹介をペアで行い、様々な状況設定でどんな表現を使って会話が進んだかを出し合い、自然な日本語を見直した。また支援する際に気を付けることは何かを考えた。 3. 形容詞 ①い形容詞な形容詞の分類、修飾用法と叙述用法の理解を確認した。 ②自然な発話を試みて、実際に使われる形はどのように変化するか、振り返った。 ③活動例として、まりボールを体験した。ボールを投げて受け取る意味、どんな段階の学習者でも発話の機会を作り、楽しいコミュニケーションが生まれることを実感した。	
全体的コメント	
日本語教育文法の知識が全くない受講生もあり、学校文法や英語学習での知識とは異なる日本語文法を客観的にとらえてみる機会となった。意識していないことを考えれば考えるほど難しく感じる部分もあるが、普段使っている日本語が学習者にとってはどこが躓きやすいのか、支援していく上では文法の基礎的な理解が必要であり、より良い支援につなげていくための方法を考える第一歩であった。文法を言葉で説明するだけではない支援の方法を見つけていけるようになるとよいと思う。また支援経験者から現場での戸惑いや様子などを聞く機会にもなり、共通の目的意識を持つもの同士の情報交換の場にもなっている。	

第5回 実施日：2017年1月26日（木） 17:30 ～ 20:30	
講 師	井上紀代
学習者	出席9名：森玲子 諸橋美樹 西口理沙 壇上智子 清水勢津子 後藤周子 柴山智帆 田村順子 村山和裕
第5回の目標	
日本語教育における文法、特に動詞文について、理解を深め、支援の方法を考える。	
概要	
動詞について、主にグループ分けの仕方と活用形の作り方、活用形を使った表現を取り上げ、実際の教え方やツールを紹介しながら支援の仕方を考えた。 - 動詞文（基本的な仕組み、語順） 外国語（英語）の文と比較することによって、日本語の文の特徴、動詞の役割を説明した。 - 動詞の提出順と指導方法 どんな動詞をどのような提出順でどうやって教えるか、初級テキストでの提出順を参考にしながら、テキストを使わずに教える場合を考え、指導する際の注意点についても話した。 - 動詞のグループ分け 国文法での動詞の分類と対比しながら、日本語教育での分類方法を紹介した。どのような規則に基づいて分類されているか整理し、グループ分けの指導法について考えてもらった。 - 動詞の活用形 様々な活用形を国文法と日本語文法におけるそれぞれの名称を確認して、整理した。その後「て形」を取り上げて、グループ毎に規則性を考えて作り方と指導法を考えてもらった。講師からは具体的な指導例を見せヒントを紹介した。 - 初級文型と活用形 基本的な活用形（ます形、て形、ない形、辞書形、た形）が代表的な初級教科書ではどのような提出順で導入され、どのような文型に使われているかを目次からピックアップして検討した。 - 活動例と教材の紹介 講師が実際に使っている教具・教材を見せながら具体的な指導例を紹介した。教材例として文化庁の教材とサイトも紹介した。	
全体的コメント	
支援に携わっている受講者だけでなく、経験のない受講者もみな大変熱心に参加し、活発に発言や質問が出た。普段何気なく使っている動詞の活用を整理して指導法を考えることは、支援経験のない受講者にとっては難しかったようだが、規則性に気づき楽しく取り組んでいた。初級学習者にとって第一関門である「て形」とグループ分けの具体的な指導例や文化庁のサイトなど教材の紹介は喜んでもらえたようだ。	

第6回 実施日：2017年2月2日（木） 17:30 ～ 20:30	
講 師	松井治子
学習者	出席9名：森玲子 諸橋美樹 壇上智子 清水勢津子 石川正子、後藤周子 柴山智帆 田村順子 村山和裕
第6回の目標	
生活者への日本語教育での文法の扱い方、そして学習者の誤用はどこから生じるかなど、日本語の特徴と絡めて紹介し、検討した。	
概要	
1. 前回の動詞の活用の続き 光明寺の日本語教室で取り入れている活用練習の参考とした海老原峰子氏の考え方を紹介し、実際のテキストの一部を見せて、説明した。学習目的、学習場所、学習スタイルなどに合わせて、テキストを選択する必要があることを理解してもらった。 2. 生活者への日本語教育に必要な内容とは 毎日の生活を自立して行うための行動場面達成型の学習と、従来の文型積み上げ型との学習についてどのような組み合わせが望ましいかを検討した。 3. 学習者の誤用 日本語の特徴と構造を復習しながら、学習者の誤用例を見ながら、どうしてそのような誤用が生じるかを考えた。また、誤用の訂正はどのような行うのがよいかいろいろなケースを紹介した。 4. 教材の素材と活用 詩2点、ニュース2点を素材にどのような使い方が考えられるか、グループに分かれて検討し、話し合いを行った。結果を発表し、講師からもコメントを加えた。	
全体的コメント	
回が進むにつれ、受講生同士の意見交換も活発になっている。誤用例を検討する際は年代によって、意見が分かれることもあり、若者世代の言葉遣いについても話がはずみ、楽しい話し合いになった。また、誤用例を見ていくことで、単なる言葉の使い間違いだけでなく、日本語と母語の相違点が誤用を引き出すことも話し合うことができた。教材素材の使い方をグループで考えていったが、支援に携わっている受講者からいろいろなアイデアが出て、経験のない受講者にとっていい学習の機会になったと思う。	

第7回 実施日：2017年2月9日（木） 17:30 ～ 20:30	
講師	新野佳子
学習者	出席5名：清水勢津子 石川正子、後藤周子、柴山智帆、田村順子
第7回の目標	
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案について概要を知る。また、その考え方で作成された教材の幾つかを紹介することによって、「生活者としての外国人」に対する日本語教育の言語学習や体験行動型の教室活動への理解を深める。	
概要	
1. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的カリキュラム案を知ろう ①概要、背景、目的、目標、言語学習や教室活動（行動体験中心の活動）について学ぶカリキュラム案、ガイドブック、教材例集を実際に手にとって、要点を読み合わせたり、重要と思われる箇所について質問をうけたりコメントを加えながら、その構成や内容を見ていった。皆、実際に手にとり熱心に読みこんでいた。行動体験の活動とはどういうものか、知識を学ぶ学習とどこが違うかを考え、その意義や教育上の効果について検討した。 ③「生活上の行為の事例」「生活上の行為の事例」に対応する学習項目について学ぶ 全30単位を概観した後、自分の学習者に当てはめて今、何ができるか、何ができるようになりたいか、一番必要なのは何かを整理し、発表して共有した。 ・「I. 健康・安全に暮らす」から、「災害に備え対応する」について、能力記述や場面、やり取りの例・語彙・文法などを見ていき、学習項目表を完成させた。/ 「I. 健康・安全に暮らす」から、「健康を保つ」について、Can-doや場面を考え、どのような教室活動ができるか、自分で考えて計画表を作り、発表して共有した。 II. 様々な支援の形を考える ①AJALT（リソース型生活日本語）や文化庁の体験行動型の教材例をコメントしながら、実際に見せて紹介した。例）「はじめましてにほん」ユニット6（交通）、ユニット9（健康と病気）②どのような活動がしたいかを選び、その活動を行うための手順と準備を、前作業、本番（行動体験活動）、後作業（振り返り）の3つに分けて、支援者と学習者がすることを中心に考えて発表し、実際の活動のイメージ作りを行った。	
全体的コメント	
「生活者としての外国人」や「標準的カリキュラム案」に馴染みのない受講生が多く、まずは概要を知ることが意義があったと思う。生活に必要なものを体験的に学ぶということについて、従来の文法・文型積み上げの考え方とは違うため、質問や疑問も出たが、「生活上の行為の事例」について自分の学習者に当てはめて考え、カリキュラム案の枠組みに沿って行動体験型の教室活動を考えてみることで、理解が深まったと思う。文化庁やAJALTのWeb上から無料でダウンロードできる様々な生活日本語教材も紹介した。	

第8回 実施日：2017年2月16日（木） 17:30 ～ 20:30	
講 師	樋口 博
学習者	出席4名：清水勢津子 後藤周子、柴山智帆、田村順子
第8回の目標	
実践研修第1回目として、学習者と対話をすることによって日本語支援における教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、対話による支援で必要なこと、注意すべき点等を考える。	
概要	
I. 本日から実践研修に入るのに先立ち日本語教室の説明 ①概要、目的、学習者や教室活動について 「生活日本語」の習得を中心としながら、さまざまなコミュニケーション活動、プロソディや動詞活用形の口慣らし練習、文字学習の他文型・表現・語彙等の言語学習も適宜取り入れた内容であることを理解した。 ②教室活動の具体例紹介 日本社会に関する情報を得るために身近な話題のニュースを素材とした活動、コミュニケーション練習としての活動、その中で文字・表現・文法等の学習を行う活動を紹介した。 II. 対話型支援について 対話型支援教材の教材例などを紹介しながら、本日実践する学習者との対話活動の進め方、留意点等について考えてみた。 III. 対話活動の準備 ①「私の家族」、「私の好きな〇〇」という話題で講師の準備した写真を見ながら質問したり、感想やコメントを述べあったりしながら会話をつなげていく実践練習をした。 ②続いて参加者が準備した素材を見せ合い、どんなことを話すと話題が広がりやすいかなど考えてみた。 IV. 日本語教室に移動して実践研修 ①教室の雰囲気慣れるため、活動を見学。 ②全員集まってお互いに簡単な自己紹介。 ③その後日本人参加者と外国人参加者がペアになって対話活動。	
全体的コメント	
実践研修初日ということで最初は少々緊張している様子であったが、事前準備を進めるうちに本日の活動に臨む心の準備もできた様子でそれぞれ活発な対話活動ができた。先週欠席だった学習者に本日の活動内容が十分に伝わらなかったため、想定と違う活動になってしまったペアもあったが、引き続き来週から行う実践に向けていい研修になったと思われる。	

2017.2.23

第9回 実施日：2017年2月23日（木） 17:30 ～ 20:30	
講師	小瀧雅子
学習者	出席5名：清水勢津子、柴山智帆、田村順子、諸橋美樹、壇上智子
第9回の目標	
実践研修第2回目として、学習者のスピーチ原稿の支援を通し、教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、作文の支援のポイントを考え、支援方法を学ぶ。	
概要	
I. 前回の振り返り 前回の学習者支援について、よくできた点、できなかった点そのほかを受講者一人ひとりに振り返ってもらい、全員で共有した。 II. 作文の支援方法について 本日は後半の実習で前回支援した学習者を引き続き支援するので、それぞれ担当の学習者を頭に思い描きながら、作文の支援について考えた。 ①作文を書く前にどのような活動をしてアイデアを引き出せばよいか考えた。マインドマップや短冊作文などの例も紹介した。 ②学習者が作文を書くときには、どのような点に注意して支援すればよいかを考えた。 作文シートや接続詞カードなど作文作成の助けになるアイデアを紹介し、一部実践してもらった。 ③学習者の作文例を使い、どのように修正したりことばを足していったりすればよいかを考えた。 III. 日本語教室に移動して実践研修 ①教室の雰囲気慣れるため、詩の活動を見学した。 ②受講者は外国人学習者とペアになり、学習者が作文を書く支援をした。	
全体的コメント	
前回の振り返りを聞くと、日本語支援をするのは初めての受講者も含め、どのペアもよいラポールができたようで、楽しかった様子が伝わってきた。ただしやり取りの段階で間違いの訂正をどのようにすればよいか、どのように話を膨らませたらよいかなどに悩んでいた受講者も見られた。そこで、今回の作文支援の学習でも間違いの訂正などを中心にみんなで話し合った。その後、実際に日本語教室に移動し、ペアになって作文の支援をしてもらったが、みんな日本語学習者のペースにあわせ、先回りせずに上手に話を引き出していた。絵や筆談などを上手に使ってコミュニケーションをしているペアも多く、少しずつ支援のコツを会得しているようだった。	

2017.03.02

第10回 実施日：2017年3月2日（木） 17:30 ～ 20:30	
講師	大上 幸二
学習者	出席6名：清水勢津子、柴山智帆、田村順子、諸橋美樹、壇上智子、村山和裕
第10回の目標	
プログラムの最終日であり実践研修第3回目として、学習者のスピーチ原稿の清書、音読練習の支援を通して、教室活動への理解を深める。活動の体験に先立ち、初級学習者にありがちな助詞の誤用を取り上げて、いかに論理的に説明し理解をさせるかについて勉強した。	
概要	
I. 前回までの振り返り アジャルト理事長が冒頭、挨拶し、これまでの勉強会での学習に対する意見、感想など聞いた。各受講者のコメントは、【国語として学ぶ日本語が新鮮だった、外国人への教え方はいろいろあることを学んだ、ボランティア経験あるがマンネリしていたので新たに学べて奮い立った、学習者は生活はできているのである程度は話せても文法をどうやってきちんと教えるかの方法、さらに具体的な活動など学べて楽しかった】・等々、総じて役に立ってよかったと述べた。 2. 助詞の誤用について ① 日本語の語彙や表現は豊富に知悉していても、助詞の誤用によって意味が違ったり、相手を混乱させることがあることを例示して説明。 ② 助詞の種類ごとに問題を解きながら、解説した。 ・ 場所を表す助詞/1.―<で、に> 動作・行事・存在・状態―それぞれの場所での使い方 ・ “ /2―<を、に> 起点・通過点・到達点 ―それぞれの場所での使い方 ・ その他の助詞 ――<に、と> 動作の相手・一緒に動作をする相手 く、に、で、から>目的・原因・手段・材料・原料 ・ 時間関係を表す助詞―<に、から、まで、までに、で>―時間、時間の始点と終点、時間の期限、時間の限度 III. 日本語教室に移動して実践研修 受講者は外国人学習者とペアになり、学習者の作文清書、また発表の練習の支援をした。	
全体的コメント	
10回という限られた回数での勉強会だったが、皆、それぞれの立場から、多くのことを学び取ってくれたようで、彼ら自身のコメントや学習者支援の実践の様子からもそれは窺がえた。特に次週の発表本番前のリハーサルでは、自分が支援した学習者に激励の声をかけたり、また他の学習者の出来栄え、様子を観察し、頷いたり・といった状況で相応の達成感を得て終了した。	

◆支援者研修勉強会 参加者名簿(出欠表)

【日 時】 平成28年 12 月 8、15 日、平成29年1月 12 日～3月2日 毎週木曜日、17:30～20:30 (全 10 日 30 時間)

【講師】: 公益社団法人 国際日本語普及協会(AJALT)所属教師

	お名前	1(12/8)	2(12/15)	3(1/12)	4(1/19)	5(1/26)	6(2/2)	7(2/9)	8(2/16)	9(2/23)	10(3/2)
1	森 玲子	○	○	○	○	○	○				
2	諸橋美樹	○	○	○	○	○	○			○	○
3	涌井 八重子	○									
4	西口理沙	○	○	○	○	○					
5	壇上智子	○	○	○	○	○	○			○	○
6	清水勢津子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	石川正子			○			○	○			
8	柴山 智帆	○		○	○	○	○	○	○	○	○
9	田村 順子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	野嶋和生	○			○						
11	後藤周子	○	○	○		○	○	○	○		○
12	村山和裕	○	○	○	○	○	○				○

支援者研修勉強会受講生募集！

【日 時】 平成28年 12月8、15日、平成29年1月12日～3月2日

毎週木曜日、17:30～20:30（全10日30時間）

【場 所】 公益社団法人国際日本語普及協会 AJALT（下記地図参照）

【参加費】 無料 下記の申込みフォームにご記入の上、FAXでお申込みください。

FAX:03-3459-9660（2016年11月25日必着、先着10名様まで）

【講師】: 公益社団法人 国際日本語普及協会(AJALT)所属教師



参加無料
お気軽に！

どなたでも参加できます

日本語教育の知識や経験がなくても大丈夫。難民の方を知りたい方、国際交流に興味のある方、日本語教師としての幅を広げたい方、全く日本語支援に関わったことがない方でも大丈夫！ 実生活やコミュニケーションに必要な日本語の教え方勉強会に参加しませんか。是非、一緒に！

地域在住外国人に対する日本語支援

【支援者研修勉強会予定】

■12月8日（1回）～2月2日（8回）は基礎研修です。

- 日本語ってどんなことば？—日本語の音、文字、形（文法）—など、日本語支援に役立つ基本的な知識を学びます。
- 学習者を知ろう—日本に暮らす難民—実際に難民の方の話を聞きながら、日本に暮らす難民について学ぶ回も予定しています。
- わかりやすく伝えよう—相手に分かりやすい「やさしい日本語」を話すコツを学びます。
- 生活に必要な日本語を学ぼう—生活日本語支援を通じた「体験行動型」の教室活動を見学します。

■2月23日（9回）3月2日（10回）は実践研修・実習です。

- 実際に体験してみよう—日本語教室に支援者として参加し、体験しながら支援の方法を学びます。

【申込みフォーム】

氏名 _____

年齢 _____ 性別 _____ 男/女 _____

所属 _____ 経験年数 _____

住所 _____

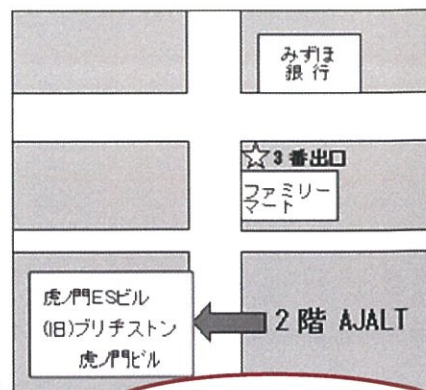
電話 _____

メールアドレス _____

【会場】

東京メトロ日比谷線 神谷町駅（3番出口）徒歩1分

東京都港区虎ノ門3-25-2



お待ちしております！

「支援者研修勉強会」参加者アンケート

「支援者研修勉強会」にご参加いただきありがとうございました。今後同様の講座を開催する際の参考にさせていただくために、アンケートにご協力ください。いただいた回答は、上記の目的以外のために使うことはありません。

団体名 _____ お名前 _____

ご連絡先 _____

E メールアドレス／電話 _____

1. 今回参加して、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか。
当てはまる□にチェック1つ(☑)をお入れください。

☐ 深まったと思う ☐ まあまあ深まったと思う ☐ 深まらなかった ☐ 分からない

2. 今回参加して、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたか。

☐ 関わってみたいと思う ☐ できれば関わってみたいと思う ☐ 関わってみたいと思わない ☐ 分からない

(2. で「(できれば)関わってみたい」とお答えの方のみお答えください)

3. 今後どちらの教室で活動なさる予定、または活動なさりたいですか。

5. 今回の講座に関するコメントをご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

公益社団法人 国際日本語普及協会(AJALT)